

Newspaper in Education

教育に新聞を

2016年度 大分県NIE 実践報告書

大分県NIE推進協議会

ご挨拶

大分県N I E推進協議会
会長 堀 泰 樹
(大分大学教育学部教授)



「2016年度大分県N I E実践報告書」の刊行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2016年8月4・5日の2日間にわたり、「第21回 N I E全国大会大分大会」を開催することができ、たくさんの方々のご参会をいただきました。記念講演・基調提案・パネルディスカッション、公開授業・実践発表・特別分科会と充実した内容の大会となりました。関係者の全ての方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

大分大会では、特別分科会として①行政との連携で進めるN I E②学校図書館とN I E③主権者教育とN I E④N I Eのカリキュラム化をテーマとして、公開授業や実践発表とは別に会を構成しました。N I E推進にあたっての課題を前面に押し出し、新聞を活用した授業づくりのための方向性を求めました。

これも2010年に本推進協議会が発足してより、N I E推進のためのワーキンググループとして地道な活動を継続された「大分県N I E実践研究会」の成果のたまものところぶ次第です。

大分大会のテーマは、「新聞でわくわく 社会と向き合うN I E」でした。新聞を通して「社会」を読むことは、どの人にとっても大事なリテラシーです。新聞に書かれた「言葉」や「写真」を「情報」としてとらえ、吟味し、考量することは、「情報」へ感覚的に反応する自らの内にあるバイアスを自覚し修正する力が必要となります。さらに、SNSやフェイスブック等の情報通信技術の進展に伴い、情報を受信するばかりでなく、発信することの影響を慮る知性が求められます。人はあるがままにものを見るよりも、自分の都合によいようにものを見るようです。今こそ、社会をとらえる「言葉」と向き合う力が求められていることを思わずにはいられません。

この報告書には、大分大会での実践発表やその他の実践記録等が掲載されていますが、これらを通してN I Eのよさや楽しさを共有し、明日の授業や学習活動につなげていただければと念じています。

本年度も大分県教育委員会・大分市教育委員会をはじめ、セミナー等へのご支援・ご助力をいただきました日本文理大学の関係者のみなさま、さらには、「大分県N I E実践研究会」に講師として、発表者として支えてくださったみなさまに心から感謝とお礼を申し上げます。

今後の大分県のN I Eの取り組みが一層盛んなものになることを祈念しまして、挨拶といたします。

- 「『ひとりひとりが思いや考えを持ち、伝え合い、高め合う児童の育成』をめざして
～N I Eを生かして～」
大分市立寒田小学校 教諭 平山 立哉
- 「全校で取り組む楽しいN I E ～全校での活動と1年生での実践～」
大分市立鶴崎小学校 教諭 本松 健一
- 「認め合い、支え合う仲間づくり ～N I Eの日常化を通して～」
大分市立舞鶴小学校 教諭 安部 聡子
- 「新聞の日常化をめざして ～新聞を使ったフリートークの実践から～」
大分大学教育学部附属小学校 教諭 安部 真治
- 「豊かな心をはぐくむN I Eの取り組み ～新聞を通して言語表現の力をつけ、より良い生き方を
求めていくN I E活動の構想～」
別府市立別府中央小学校 教諭 石川 直美
- 「自ら学ぶ力を育む授業づくり ～N I Eの良さを日常の授業に取り入れて～」
中津市立山口小学校 教諭 小洞 純子
- 「保健体育科におけるN I E」
大分市立滝尾中学校 教諭 甲斐 広樹
- 「『磨き合う力』の育成 ～思いや考えを深め合う新聞活用～」
大分市立判田中学校 教諭 進 麻美
- 「主体的な学びを引き出すN I E」
中津市立東中津中学校 教諭 長松 涼子
- 「新聞で社会に目を向けよう～生徒が主体的に思考・判断・表現するために～」
豊後高田市立高田中学校 教諭 鈴木 惟真、桑原 美香
- 「『学び合い、つながり合う学級・学年づくり』～N I Eを活用し、共感的人間関係を育てる授業の
工夫～」
臼杵市立北中学校 教諭 後藤 真理
- 「新聞を通して考える 社会と自分～新聞を進路目標設定（進路学習）に活かす方法を探る・2年
目～」
大分県立大分舞鶴高等学校 教諭 小坂 吏香
- 「新聞を通して社会と向き合い行動できる生徒の育成」
大分県立別府青山・別府翔青高等学校 主幹教諭 徳光 省吾

「ひとりひとりが思いや考えを持ち、伝え合い、高め合う児童の育成」をめざして

～N I Eを生かして～

大分市立寒田小学校 教諭 平山 立哉

1. はじめに

本校では研究主題に、「ひとりひとりが思いや考えを持ち、伝え合い、高め合う児童の育成」を設定し、3年間、研究を進めてきた。

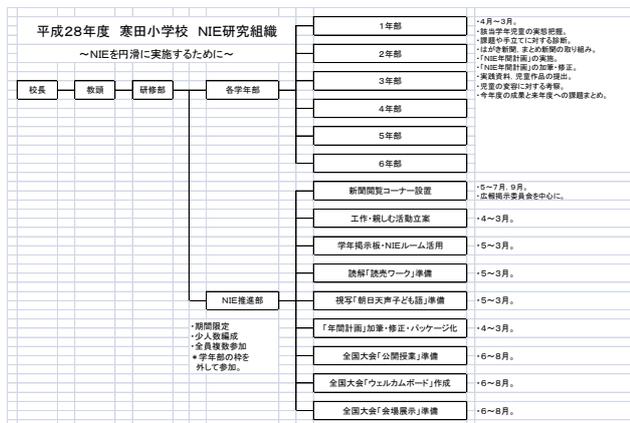
とりわけN I Eについては、言語活動を充実させ、児童のコミュニケーション能力を育成するための有効なツールとしてとらえ、実践に取り組んでいる。

特に、全国大会を大分県で開催した本年、その公開授業や特別分科会での発表の準備を含め、子どもたちの“伝え合い、高め合う力”をどのように伸ばしてきたか、研究組織やカリキュラム化を中心に振り返ってみたい。

2. 実践の内容

(1)研究組織

平成28年度は、平成27年度に編成した推進部の活動を継続しつつ、全国大会大分大会に備えて、新たに関連する推進部を立ち上げ、活動を行った。



↑平成28年度 NIE推進部

①「新聞閲覧コーナー」設置

(各新聞社から助成を受ける4カ月間。6～7月、9～10月)

広報掲示委員会に、毎朝、6社分の新聞を図書室の閲覧コーナーにならべさせる。高学年を中心に、新聞を閲覧する姿が見られた。



②工作・親しむ活動立案

(6～3月)

担当がワークショップなどを通して、新聞に親しめるような活動を提案し、実践した。





③学年掲示板・N I Eルーム活用

(6～3月)

学年掲示板には、児童の作品を掲示する。

N I Eルームを図書室に設置し、残しておきたい児童の作品を展示できるようにした。

それらの活動が円滑に行われるように連絡、調整を行った。



④読解「読売ワークシート」「合同ワークシート」印刷

(6～3月)

1週間に1回、「読売ワークシート」「合同ワークシート」に取り組みせることができるように、高学年の児童数分のワークシートを印刷し、各学級に配布した(低中学年においても、取り組みそうな内容があれば印刷し、配布した)。

⑤視写「天声子ども語」印刷

(6～3月)

1週間に1回、コラム「天声子ども語」に取り組みせることができるように、高学年の児童数分のワークシートを印刷し、各学級に配布した。



⑥「N I E年間授業計画」加筆・修正・パッケージ化

(4～3月)

「年間授業計画」に位置づけた授業を実践し、さらに加筆と修正、パッケージ化を行った。

⑦全国大会 公開授業準備

(4～8月)

公開授業を行う学級の授業を観察し、指導案の作成に役立てた。観察授業後、参観した教師から児童へ助言を行った。



⑧全国大会会場の「ウエルカムボード」作製

(6～8月)

全国大会会場エントランスを飾るウエルカムボードのデザインと作製を行った。



⑨全国大会会場 「児童作品の展示」

(8月)

ホルトホール1階フロアや、サテライト会場の「宗麟館」2階フロアに、寒田小学校児童の作品を掲示し、実践の足跡を展示した。



(2)全国大会での公開授業

本校では、子どもたちが思いや考えを持ち、伝え合い、高め合う力を育成するために、新聞をどのように活用すべきか授業提案を行った。



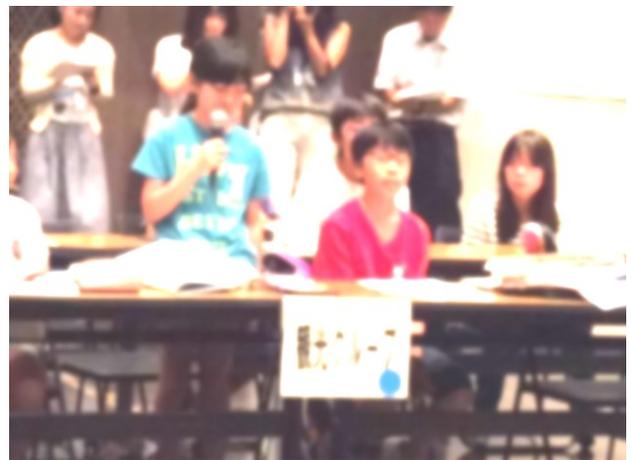
公開授業を行ったのは本校6年1組(指導者は麻生紗緒里教諭)。教科は国語科。単元名は「ようこそ わたしたちのまちへ」である。



子どもたちは、大分のよさや大分らしさを伝えるパンフレットのトップページには、大分の「歴史」がふさわしいか、大分の「食」がふさわしいか、話し合った。



どちらも、主張の根拠に、新聞記事を有効に活用している姿が見られた。



- ・ 中学年：3年国語「よい聞き手になろう」



- ・ 高学年：5年国語「新聞を読もう～2020年東京オリンピックエンブレムの決定」

※新聞記者の招聘



☆全校での切り抜き新聞の取り組み

- ・ 校内切り抜き新聞グランプリの実施（全校で6月に実施し、職員で審査し、全校朝会にて表彰を行った）



- ・ 大分合同新聞主催切り抜き新聞グランプリに全校で応募（12～1月に全校児童で切り抜き新聞に取り組む）



- 新聞づくり・情報発信の取り組み【アウトプットの活動】

- ・ 授業で学んだことや考えたことをまとめる新聞づくり



- ・ 学校・学年行事後の新聞づくり



- ・ 新聞への投稿～大分合同新聞「読者のページ」
- ・ 新聞紙面づくりの学習（4年国語）

※新聞記者の招聘

- ②1年での新聞を使った実践

- 特活
 - ・ 「しんぶんしであそぼう」
 - ・ 「えがおをみつけよう」



- 図工
 - ・ 「ひもひもねんど」
 - ・ 「しんぶんしでつくろう」



・「やぶいたかみからうまれたよ」



○体育 ・「新聞紙を使って体を動かそう」



○N I Eタイムでの取り組み

〈1学期〉

- ・新聞紙を長くちぎる
- ・かぶと、メキシカンハットづくり
- ・新聞紙じゃんけん
- ・なまえのひらがなさがし



〈2学期〉

- ・カタカナをさがし
- ・習った漢字をさがし
- ・一～十をさがそう



〈3学期〉

- ・切り抜き新聞に向けて写真探し
- ・新聞広告で福笑いをする



3. まとめ

(1) 学校での取り組みについて

○児童へのアンケートの実施

2月初めに4～6年の児童を対象にN I Eに関するアンケートを行った。下記が昨年度の同時期に取ったアンケート結果と比較した結果である。

① 「N I Eコーナー」や「新聞閲覧コーナー」、「今日の新聞の一面」で新聞や掲示物などを読んだことがありますか。(単位は%)

	よくある	たまにある	あまりない	ない
昨年	13	40	28	19
今年	22	45	22	11

② 朝のN I Eプリントの取り組みは楽しいですか。

	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
昨年	21	52	17	10
今年	28	56	11	5

③ 授業での新聞を使った活動や新聞作りは楽しいですか。

	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
昨年	42	42	9	7
今年	51	38	7	4

(2) 新聞の取り組みを通して、感じることに
ついて

① 新聞を身近に感じるようになりましたか。

	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
昨年	27	48	17	8
今年	30	53	13	4

② 世の中のことに興味を持つようになり
ましたか。

	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
昨年	23	52	17	8
今年	42	40	14	4

③ 自分の考えを持ち、表現するようにな
りましたか。

	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
昨年	14	44	31	11
今年	22	50	21	7

○アンケートの結果からの考察

どの項目についても、昨年度と比べて肯定的に答える児童が増加した。昨年度から全国大会に向け、全校的に新聞を活用した取り組みを進め、児童にも浸透していったと考えられる。

特に5・6年は毎週金曜日にその日の新聞が1人1部ずつ届き、スクラップを続けていったこともあり、「世の中のことを知るようになった」「楽しいと思うようになった」という意見が多かった。

他の学年も、行事後の新聞づくりなどの取り組みを独自に進めていった。それが4年生以下でも新聞が身近に感じるようになってきていることにつながっていると思う。



しかし、新聞を使った活動に抵抗感を持つ児童も1～2割ほどいる。これからは低学年から新聞に親しんだ児童が中学年になる。今後もコ

ツコツと小さな取り組みを継続し、引き継いでいくことが大切であると考える。

(3) 1年生の実践について

今年度は1年生の担任となり、1年生で新聞を使った取り組みがどのようにできるのか、手探りで始めていった。取り組んで分かったことは、1年生でも十分に新聞は活用できるということだ。

新聞紙は大きくて柔らかく、加工しやすいので、低学年の児童にとっても非常に扱いやすい素材である。

きれいで楽しい写真や新聞広告などが多くあり、切り抜きをさせると喜んで取り組む。自分で切り抜いた新聞は、他の人に見せたいという意欲につながる。

また、ひらがな、カタカナ、数字、また意外に1年生で習う漢字も多く、この時期は文字に対する興味が高いので、字を探す活動に意欲的に取り組む。

古新聞は比較的手に入れやすいので、すべての児童に思い切り使わせることも可能である。

(4) 今後の課題

今年度は大分での全国大会に向けて、学校全体でNIEに取り組む雰囲気が持てたところも大きい。しかし、学校現場は年々忙しくなっており、大きな目標がなくなった中でNIEの取り組みを広げていくことはなかなか難しいと感じる。継続可能なものを精選しながら、個人や学年での取り組みを深めていけるような研究を模索したい。

認め合い、支え合う仲間づくり

～N I Eの日常化を通して～

大分市立舞鶴小学校 教諭 安部 聡子

1. はじめに

本校ではN I Eの取り組みが4年目となった。当初2年間は高学年を中心に行っていたが、N I E全国大会の発表校に指定されたことを受け、昨年度から全校でN I Eに取り組み、N I Eの日常化(楽しむ・親しむ)を図ってきた。

昨年度の「情報を取り出し再構成する力」を育てる指導から、今年度は「再構成した情報の発信」へと発展させ、「集団づくり」や「交流活動の強化」を通して学びの意欲化・深化を図ることとした。そこで研究主題を「認め合い、支え合う仲間づくり～自尊感情を高め、思いを発信する活動を通して～」と設定し、N I Eを楽しみ、N I Eの学びを活用しようとする子どもの育成をめざした。

学校教育課程において、これまでの実践例を活用して各教科・領域でN I Eに関わる内容を位置付け、N I Eの系統化へとつなげることとした。また全学年で総合的な学習の時間などを活用して学びを発信する活動を設定することを共通理解した。

2. 実践の内容

本校での実践を(1)N I Eタイムの設定(2)授業実践(3)環境整備に分類して紹介する。

(1) N I Eタイムの設定

毎月1回、朝の活動(15分間)に全校で実施。各学年で、実態・状況に応じて内容・記事を決定。遊び・興味をひく・多様性・時事性などの視点でN I Eに取り組んだ。記事に対する意見の交流だけでなく、「自分ならどうするか」を問い主体的に関

わらせる(発信する)活動も取り入れた。

《1年生》

○「新聞遊び」

年度当初はまず新聞に親しむことを目指し、新聞を素材として遊ぶ活動に取り組んだ。新聞紙を丸めたり破ったりして素材感を楽しむとともに、紙鉄砲を作って音を鳴らして遊んだ。また写真や広告に着目し、春や夏の季節の様子を見つけた。



○「漢字見つけ」

各自に1枚渡した新聞紙面の中から既習の漢字を見つけ、印をつける活動に取り組んだ。これまでの新聞遊びとは異なり、紙面に集中して隅々まで文字を探すことができた。

《2年生》

○「新聞遊び」

新聞を破らずに長く手でちぎっていく活動の中で、1年の時に気づいた縦目や横目を思い出したり、途中で切れずに長くちぎるにはどうすればよいかを考えたりした。ちぎる際に、新聞の写真や見出しの文字に目をやり、話題にしている子も見られた。ちぎった作品は掲示し、算数の「長さ」の学習に活用した。

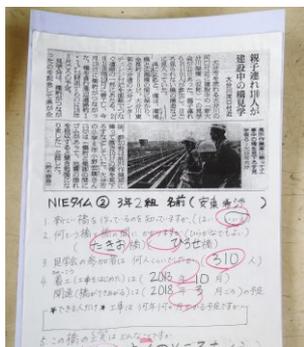
《3年生》

○「日田市の小学生の梨の袋掛け」

○「大分川に建設中の新大橋」

身近で文章の量が少ない記事を選んでワークシートを作成した。記事は教師が読みながらその場で説明も加え、その後問題を解かせ

るようにした。単なる内容の読み取りだけでなく他教科と関連させ、直径が何倍になるか、工事期間が何年何カ月間になるかの計算や国語辞典を使った意味調べも入れ、興味が持てるよう工夫した。（下はワークシートの写真）



《4年生》

- 「熊本大分地震」
- 「伊勢志摩サミット」

短時間で取り組めそうな記事を選んでワークシートを作成し、①教師が記事を読む②自分の考えを書く③考えを交流する、という流れで取り組んだ。「熊本大分地震」の記事では、同じ小学生がみんなのためにできることを考えたことを知り、自分だったらどうするかを考えた。「伊勢志摩サミット」の記事では、志摩のいいところを世界に知らせようとする活動を知り、「世界に大分のよさを伝えるとしたら何を伝えたいか」について話し合った。

《5年生》

- 「自動で走る車」
- 『18歳で大人』早すぎる？

新聞社のワークシートを使い、実際の新聞記事で世の中の情勢に関心が持てるようにした。読むのが苦手な子もいるので、低・中学年向けの記事と高学年向けの二つの記事を扱った。朝の活動の時間だけでは短いため、前日にワークシートを渡しておき、主にお互いの考えを交流する場とした。

「自動で走る車」に関する記事では、いい

点や問題点など自分なりの考えを出し合うことができた。『18歳で大人』早すぎる？』の記事は、子どもたちは身近な問題だと捉え関心を寄せていた。大人としての責任について、記事から多面的に考えることができた。

《6年生》

- 「東京オリンピックのエンブレム」
- 「食品ロス」

短時間で読んで考えられそうな記事を選び、①記事を読む②自分の考えを書く③考えをペアや全体で交流する、という流れで取り組んだ。「東京オリンピックのエンブレム」の記事では四つの候補を紹介し、どのエンブレムがよいかを考え、交流した。後日、クラスでは一番人気がなかったものが選ばれたことを紹介すると、子どもたちは選定理由に興味を持っていた。「食品ロス」の記事では、日本が食品を大量に廃棄している事実には驚くとともに、自分の食生活につなげて考える子どももいた。

(2) 授業実践

《1年生》

- 図工「新聞で遊ぼう」

入学後すぐのPTAで授業を行い、NIEの取り組みを保護者にも知らせた。新聞紙を細くちぎったりヨーヨーを作って遊んだりして、新聞を使った遊びの楽しさに触れた。

授業中いくつもの活動を組んだが、指示を聞く・準備をする・協力して片付けるなどの作業がスムーズにできた。

- 図工「やぶいたかたちから」

新聞を自由に破って出来た形から何が出来るか見立てる学習に取り組んだ。破ってできた紙を組み合わせて動物や建物などに見立てたが、見出しや写真を目や口・模様を活用する子もいた。

《2年生》

- 国語「夏がいっぱい」

写真や見出しから夏を感じるものを探した。

選んだ写真や見出しを、自分なりにレイアウトして、夏を感じる理由を付け加えた。2年生にとって記事の内容までは深く読みとれないが、見出しや写真から「花火」「夏野菜」などたくさん見つけることができた。友だちと紹介し合い、日々の出来事や記事の違いを感じ、季節感や行事について知ることができた。

○国語「冬がいっぱい」

冬の言葉をたくさん上げた後、グループで新聞の中から冬を見つけた。見つけた冬の記事や写真を切り抜きながら、画用紙にレイアウトしていった。

《3年生》

○学級活動「地震の時、どんな行動をすればよいか考えよう」

熊本大分地震の直後、PTAで新聞記事「大きな揺れ その時には」を扱った。身近な話題であり子どもたちの関心は高かった。授業では地震が起こった時どんな行動をとればよいかを①寝ている時②家にいる時③外にいる時④店などにいる時、の四場面に分けてグループで話し合った。そして記事を全員で読み、「姿勢を低く・頭を守る・海や川から離れる」ことなどを確認し、感想を伝え合った。

○図工「新聞紙を使ってエコバッグを作ろう」

新聞紙2枚程度とりのり・はさみを使ってできる簡単な作り方のものを選んだ。そのため時間内に作品を完成させることができた。

《4年生》

○社会・総合「新聞を作ろう」

消防署、警察署の見学後、分かったことを新聞にまとめた。また車いすマラソンの選手との交流後、障がいのある人の生活の工夫などを新聞にまとめた。

《6年生》

○学級活動「防災について考えよう」

熊本大分地震の記事をきっかけに、命を守るための対応や備えについて、今自分にでき

ることを考えた。また毎日小学生新聞の記事(熊本で被災した子どもたちの取り組み)から、万一に備えて自分から実践しようとする意欲が高まった。

○総合的な学習の時間「平和について考え、発信しよう」 **※NIE全国大会の実践。**

5年の地域学習・6年の修学旅行などで平和学習を積み重ねてきた。広島の小中学生が作った「平和への誓い」が掲載された新聞記事内の「小さな平和」という言葉に着目して話し合うことを通して、自分が平和をつくる当事者であり、平和のために行動できることがたくさんあると気付いた。



○特別活動「なぜ、日本チームは銀メダルをとれたのだろう」

リオオリンピックの陸上男子400メートルリレーで日本チームが銀メダルを獲得できた理由の記事から探り、運動会に向けて自分ができることを具体的に考えた。子どもたちは、作戦(バトンパス)、それを成功させた練習・努力などに目を向け、選手と自分たちをつなげて考えていた。

○道徳「あったか言葉を集めて、ハッピーコラージュを作ろう」

新聞記事から、あったか言葉(言われてうれしい、元気・勇気が出る)や写真などをスクラップし、画用紙にレイアウトするコラージュを親子PTAで実施した。紙面上のたくさん素敵な言葉に触れることができた。

(3) 環境整備

○日常的に新聞に触れる機会をもつ

- ・図書館の新聞コーナーの設置。
- ・廊下・掲示板で新聞記事の紹介。

- ・教師が新聞の出来事を話題にする。
- ・係の児童が新聞記事を紹介。
- ・新聞社作成のワークシートを週末の課題として活用。

＜各新聞社からの新聞提供＞

○学びの積み重ね・紹介

- ・児童の作品の掲示 ・他学年への紹介
- ・ワークシートのファイル化



3. 成果と課題

これまでの新聞を活用したN I Eの取り組みを通して子どもたちは社会の様子に関心を持ち、日常会話の中にもそれが表れてきた。また取り組みを重ねることで、自分の考えが持てるようになってきているとともに、交流活動に慣れて自信をつけてきている。「次は何をするのか」と活動を楽しみにする様子や、教科などの学習に自信が持ちにくい子がN I Eで生き生きと活動する姿も見られた。取り組みの成果と課題を以下の4点にまとめて述べる。

(1) 学習素材の工夫

○興味をかきたてる素材

低学年のうちは新聞自体に興味を持たせ、遊びから次第に学びへ移行していく。

子どもにとって身近な話題や時事性のあるものが効果的だった。子どもの視野を広げるような内容も取り上げる。

○実態に応じた素材選びや支援

読みやすく理解しやすいものを選ぶ。教師が記事を読み聞かせたり事前に読ませておいたりして理解を深め、各自の考えを持ちやすくすることができた。

(2) 交流活動

○ペアやグループでの活動

全体ではなく少人数の場を設定することで、個人の意見が出しやすくなる。また他者の意見に触れ、多様な考えを持つ(知)ることができる。自分の意見を認めてもらえる交流活動の楽しさに触れ、日常の学習活動や人間関係にも生かされる。

○主体的な学びへ

資料のまとめ・感想にとどまらず、「自分ならどうするか」という視点を持たせる。

○場の設定方法

ねらいに沿って、いつ・どのように話し合い活動を仕組むかが重要。また、話し合い活動の進め方の定着も課題。

(3) 継続した取り組み・繰り返し

○前学年での学びを生かす・系統性

○パターン化によるスムーズな活動

- ・2年「季節見つけ」の繰り返し。
- ・ペアやグループでの話し合い活動。
- ・ワークシートの活用。
- ・学習のまとめとしての新聞づくり。
- ・スクラップ活動の習慣化。

○作品の掲示

(4) 保護者に活動を知らせる

○PTAでN I E活動の実施

1年保護者に最初のPTAで取り組み、N I Eについて知ってもらった。6年「ハッピーコラージュ」の親子活動は、新聞のよさに触れることができ好評だった。

○児童の作品の掲示

○学年通信や学校HPで活動内容を紹介

4. おわりに

取り組みの継続とともに、新聞を資料として読み内容を理解するだけでなく自分の意識・行動につなげることで、主体的に問題に関わろうとする態度が高まり、N I Eの日常化が進んだと言える。また他教科の学習などにおいて交流活動の流れが実践されることにより、N I Eを通じた学びも日常化(浸透)している。

新聞の日常化をめざして

～新聞を使ったフリートークの実践から～

大分大学教育学部附属小学校 教諭 安部 真治

1. はじめに

本校は重点目標の一つとして、大分県グローバル人材育成推進プランの具現化を掲げている。これからの社会を生きる子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働し、未来を切り拓くための力を育む研究・実践を重ねている。そのグローバル人材の育成に向けて、NIEを通して、「大分県や日本への深い理解」を育みたいと考えている。なぜなら、新聞の役割として、社会の出来事を分かりやすく伝えるということがあるからだ。新聞は他のメディアと比べて構成面の特徴、情報の多様性、自分で記事を選び、読むことができる選択性の面で優れている。多くの情報の中から比較・検討しながら自分に必要な情報を得ることができるのが新聞の良さであり、それは今求められている多様な価値観の育成にもつながる。本校の目指す教育をさらに強固にするために、NIEの取り組みを実践していく。

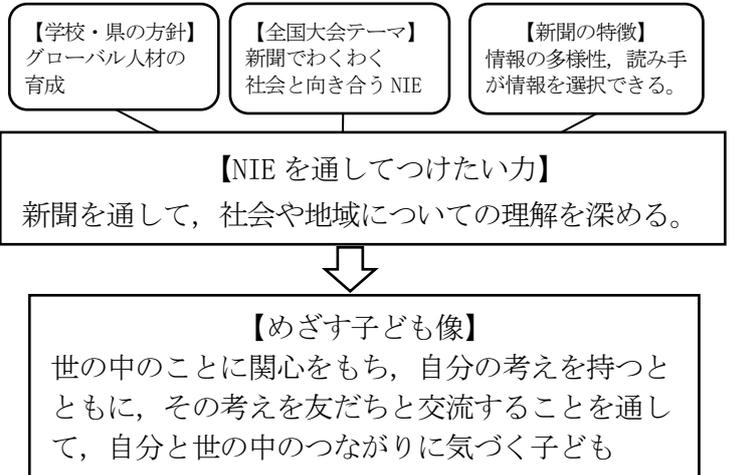
2. 児童の実態及びつきたい力

(1) 児童の実態

平成28年3月に実施した調査では、「大分県や日本で起きている出来事に興味がありますか」に対して83%の児童が「はい」と答え、「新聞について読んでみてよかったなと思ったことはありますか」に対して47%の児童が「いいえ」と答えた。このことから、大分県や日本に興味を持っているものの、情報を得る手段として新聞のよさを感じていないと言える。新聞は社会の出来事を知るために有効なメディアであり、どのように新聞に触れさせるかが課題と言える。

(2) つきたい力とめざす子ども像

児童の実態、大分大会のテーマ、本校や県の方針と関わって、つきたい力を次のように設定した。



3. 実践の概要

(1) 新聞を使ったフリートークの概要

①新聞を使ったフリートークの意義について
昨年度から、朝の帯時間に全学級で、「児童が設定した話題についてみんなで話す」というフリートークを実践してきた。フリートークは次の流れで行なっている。

1. 提案者によるテーマと自分の考えの発表
2. 自由に子どもたちが意見交換
3. 提案者による感想
4. クラスの児童による感想
5. 教師の価値づけ

*テーマ例 すきな給食、忘れ物をしない方法など、児童にとって身近なものを取り入れている。

このフリートークを続けることにより、子ども同士の相互理解が深まるだけでなく、自分とは異なる考えを受け止める能動的な聴き方が育ち、さまざまな意見を認め合うことができるようになってきた。

従来のフリートークは児童の生活に密着した話題を取り上げていた。これまでのフリート

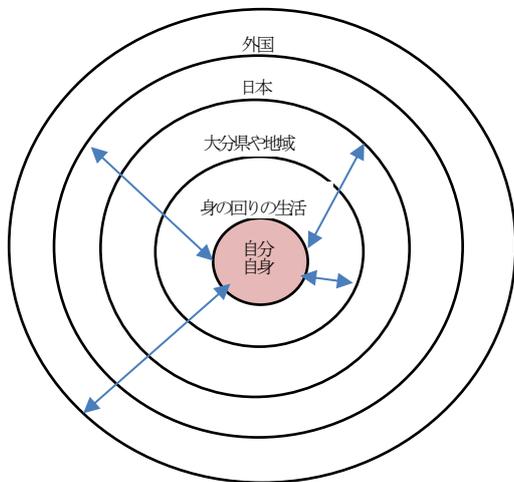
クに新聞を取り入れることで、自分の生活に限らず地域・社会・外国など多様な情報に触れることができる。そこで、新聞を使ったフリートークを週に1度、朝の帯時間に実施することにした。(その他の日は本来のフリートーク)。週に1度新聞記事を基に交流し、新聞に親しむことが、子どもたちが将来、日常的に新聞を手に取り、活用することにつながると考えている。

②発達段階に応じた新聞を使ったフリートーク
新聞をフリートークに導入するにあたって、どのような記事を取り扱うかについては発達段階に応じたものにする必要がある。本校では【めざす子ども像】にある「世の中」に関わって、低・中・高ごとに扱う記事を考えている。

☆発達段階に応じた世の中のとらえ方

低学年	身の回りの生活に関わること←自分の生活に重ねやすいもの。例 家族、学校のことなど
中学年	地域や日本のこと←聞いたことはあるが、あまり関心を向けなかったもの。例 大分や他県のことなど
高学年	日本のこと、世界のこと←聞いたことはあるが、あまり関心を向けなかったもの。例 社会問題や国際関係など

○自分と世の中のつながり



(2)新聞を使ったフリートークの実際について
①成果と課題

成果	課題
○同じ記事をみんなで読むため、話す土台ができています。 ○新聞記事を読むことで、世の中のことを知ることができている。話題が広がっている。	○新聞記事と自分の生活の結びつきについて ○記事の選定について ○新聞を使ったフリートークにおける教師の関わり方について

②課題に対する取り組みについて

○新聞記事と自分の生活の結びつきについて
新聞を使ったフリートークの大きな魅力はこれまで自分が目を向けなかった話題にふれることにある。一方、自分の生活とあまりにも離れ過ぎてしまい、関心が持てないということもある。記事を自分の生活と結び付けるにあたっては以下の2点を考慮して実践している。

- 1) 記事の提示の仕方の工夫
予備知識を与えたり、記事内容の簡単な紹介をしたりする。
- 2) 学習内容と関連した記事選定
既習の知識を生かして記事を読ませるために、学習内容と関連した記事を選定する。

○記事の選定について

本来のフリートークでは、その日のテーマを子ども自身が決めるのが原則である。しかし、新聞を使ったフリートークにおいて、現段階では、子どもに新聞記事を選ばせると、話題に適さない場合がある。発達段階に応じて、教師がある程度チェックする必要がある。もちろん、記事の選択を児童に任せるということも主体的な読み手を育てるためには重要である。そこで、記事の選定には以下の3つのパターンを取り入れている。

- 1) 教師が記事を選定し、児童に配布する。
- 2) 児童が記事を選び、教師が適切かどうかをチェックし、配布する。
- 3) 教師が記事をスクラップ、または掲示したものの中から、子どもに選択させる。

○新聞を使ったフリートークにおける教師の関わり方について

本来のフリートークでは、自由に子どもたちが意見交換するとき、教師は児童の様子を観察することに徹している。しかしながら、新聞を使ったフリートークでは、教師が途中で意見交換に入ること、期待する子どもの姿に近付いていくことが分かっていた。そこで、以下のように教師の関わり方及び価値付けを位置付けている。

教師の関わり方	価値づけの例
<ul style="list-style-type: none"> ・話題の整理。 ・話題の切り替え。 ・話題の焦点化。 ・子どもの話を掘り下げる。 ・生活と結び付けた児童の発言を取り上げる。 ・新聞記事に話題を戻す。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りの生活と結びつけるなど、期待する学び方をする児童を取り上げる。 ・話し合った内容の価値を意識させる。 ・自分の生活と結びつけるなど、よい新聞記事の読み方をしてきた児童のよさを広げる。 など

(3) 教科につながる新聞を使ったフリートーク
ほとんどの新聞を使ったフリートークはその時間にしか、話題としない。しかし、時にはフリートークが日頃の授業に影響を与える場合もある。

①授業の導入ー学習の動機付けとして位置付ける場合

- 実践教科 国語
- 概 要

「絶滅危惧種救出ファイルを作ろう」という「読むこと」の学習で使用した。授業を進める前に、絶滅危惧種に対する知識を学級で共有し、生物の絶滅に対する危機感を持たせるためにゴリラやウナギに関する記事を使ってフリートークをした。フリートークを通して、じっくりと絶滅危惧に関する意見を交わすことで、ねらいとしていた絶滅危惧に対する興味・関心を高めることができた。

②授業の発展として

- 実践教科 社会
- 概 要

「ごみの始末と活用」という学習で利用した。ごみがどんどん増えてきているという知識を社会の時間で得ている児童に、ごみを減らすための他県の新聞記事を読ませた。すると、「ぼくたちもできることがあるかなあ」とすでに持っている知識を使いながら、ごみを減らす方法について具体的に考えることができた。

このように教科とつながるフリートークを実施することで、新聞に関する児童の興味を高めることができた。

(4) 新聞を使ったフリートークの話題例

これまで児童は下記のような話題でフリートークをしてきた。話題は身近なものから、国際的なものまでさまざまである。

【低学年】

- ・ドラえもののひみつ道具
- ・家のお手伝い
- ・将来の夢
- ・難しい漢字を覚える方法
- ・新学期のめあて

【中学年】

- ・未来の給食
- ・イチロー選手の新記録

- ・各家庭で取り組める食品ロス対策
- ・日本のごみ問題
- ・チャイムがない学校

【高学年】

- ・オリンピックのエンブレム
- ・伊勢志摩サミット
- ・世界の災害
- ・日本人が発見した新元素
- ・熊本、大分地震

4. 環境整備について

(1) 教員の新聞活用について

教員が新聞記事を選定するにあたって、職員室の目に付く所に新聞記事を配置した。すると、新聞を手に取り、チームで記事を選定する姿が見えてきた。



(2) 児童が新聞に触れ合う環境整備

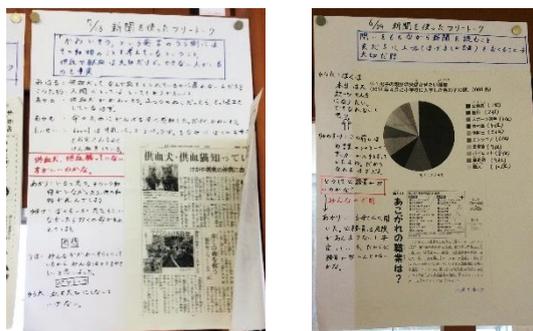
NIEコーナーを作った。NIEコーナーには新聞委員会の児童が選んだお薦めの記事や、最新の小学生新聞を配置したりした。その結果休み時間に気軽に新聞記事を読む児童が出てきた。



(3) 新聞を使ったフリートークの掲示

実践を進めるにあたって、新聞を使ったフリートークで学んだ知識や話し方が累積していかないという悩みがあった。そこで、これまでの

新聞を使ったフリートークでどのような話が交わされたのか、教師の価値付けがどのようなものであったかを掲示することにした。



5. おわりに

ある児童は「私が新聞を使ったフリートークをしていて感じたことは、新聞や友だちと触れ合えているということです。意見を出し合う時は、新聞を基に友だちの考えを知ることができます。『こんなことを思っているんだな』『この子はこうしたいんだな』と、友だちのことが分かります。それは仲が深まっているということです」と述べていた。

本校のNIE活動は始まったばかりだが、児童にとって新聞が身近なものになりつつある。今後も多くの児童が新聞に親しむことができるよう、実践を重ねていく。

豊かな心をはぐくむNIEの取り組み

～新聞を通して言語表現の力をつけ、
より良い生き方を求めていくNIE活動の構想～

別府市立別府中央小学校 教諭 石川 直美

1 はじめに

本校は、道徳の研究をしており、子どもたちが道徳的価値を追究していくためには、社会のさまざまな事象に触れたり、豊かな言語力を育んだりすることが重要であると考えている。こうした力をつけるためのツールとして、新聞は最適であるが、近年、新聞を購読している家庭も減り、子どもが新聞に触れる機会は少なくなっているのが現実である。

そこで、NIEの実践校に指定されたことをきっかけに、全校でNIEの実践を継続して行い、子どもに読む力だけでなく、社会のさまざまな事象に出合う機会を増やしていこうと考えた。

2 導入方法

(1) ねらい

- 新聞を通して、子どもたちがいろいろな社会事象に出合い、その意味を考える機会をつくる。
- 新聞に親しみ、興味関心をもつことで、進んで新聞を読もうとする子どもを育てる。
- 新聞を活用することで基礎的な学力をつける。
 - ・読解力（言葉にこだわり、話の内容の要点をつかむことができる）
 - ・思考力、判断力（社会事象と自分自身のつながりを意識する）
 - ・表現力（記事に対する自分の考えを表現する）

(2) 内容

- ・全校NIEタイムの実施
- ・NIEコーナーの設置
 - 新聞よむよむスペース
 - 情報発信スペース
 - 新聞活用スペース



【NIEタイムの様子】

3 主な取り組み

(1) 全校NIEタイム

◎毎週金曜日

- ・朝の時間 8:30～8:40
ワークシートに取り組む
- ・昼の時間 13:45～14:00
ワークシートの解説とふりかえり

配信される最新のワークシート通信や新聞から担当者が全クラス分印刷し、金曜日の朝、配布する。学年や子どもの実態に応じて、各自、またはみんなで読んで、記事の内容や言葉の意味などをとらえ、自分の考えを書いていく。わからないことがあ

ば、自分で調べたり、人に聞いたりして活動を進めていく。昼の活動では、教師が補足説明をしたり、内容に応じては学級でショートの話し合い活動を取り入れたりすることもある。

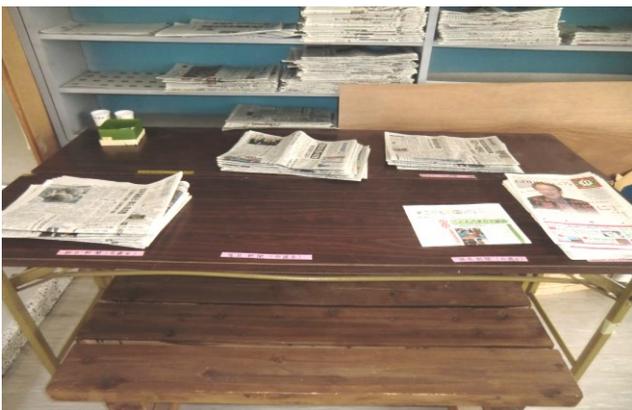
活動終了後は、振り返りができるように、毎回、一人ひとり NIE ファイルに貼って保存する。

(2) NIE コーナーづくり

①新聞よむよむスペース

(新聞を読む場所)

全校児童が通り、だれもが立ち寄りやすい全校児童の靴箱のある昇降口に設置した。新聞社ごとに分類して並べることで、新聞の内容を新聞社によって、読み比べやすくしている。また、新聞を1週間ごとに整理するため、最新の記事を読むことができ、過去の新聞も2カ月は棚の上に分類しておくことで過去の記事を調べることができるようにしている。3カ月過ぎたものは、活用スペースに移動し、様々な活動に活用している。



【NIE コーナー(よむよむスペース)の様子】

②情報発信スペース

(新聞記事を掲示、紹介)

主に広報委員会の児童が担当して、話題の

記事を紹介する。1週間の並べ替えの際に気になった記事を紹介している。担当児童のこだわりや季節ごとの話題を全校に提供している。場所はよむよむコーナー横(昇降口)と図書室前掲示板の2カ所に設置している。

新聞クイズを担当教職員と広報委員会で新聞の記事の中から抜粋し、校内の話題の中から出題するなどして、全校児童が興味関心を持てる内容で出題している。



【NIE コーナー(情報発信スペース)
図書室前掲示板の様子】

③新聞活用スペース

新聞を使って、学年学級ごとに様々な教科で活用する。

主に図工や習字、総合的な時間の活用であるが、学校での活動の中に新聞が必要になってくるが多いために非常に重宝している。



【節分で作ったお面】

(3) 学級での NIE タイム～3年生の実践 ・「ミニ記者になってみよう」

気になる記事を切り抜いて、自分なりのコメントを書いてみることや今話題のことをテレビ欄から見つける活動を国語の時間を活用して、ショートで行っている。

自分がミニ記者になったつもりでやってみようと投げかけて始めたが、子どもたちの見つけてくる記事は、偏った内容ばかりでなかなかこちらが目指していた内容には程遠かった。しかし、掲示して他の子どもの記事を読んだり、教師のコメントを聞いたりしていくうちに少しずつ変化が出てきた。国語の学習でも新聞の学習につながるインタビューや調べたことをまとめる学習もあり、それらの学習とつなげながら、続けてきた。上手な子どもの作品を紹介しながら、それぞれの良さを認めつつ、活動を進めるうちにコメントの仕方が本物の記者風になり、ニュース的な内容で書きあらわす子どもが出てきており、継続の力を感している。



【新聞記者になったつもりで・・・

活動の様子】

・「新聞で作ってみよう」

図工の時間を活用して、新聞を活用した工作をつくっている。七夕、クリスマス、節分など行事にかかわるものやレクの時間に使って楽しめるものなどを作っている。

最近行った節分では、新聞紙をちぎって小

さく丸め、豆に見立てた節分の豆づくりと、鬼のお面を作った。何度か作るうちに新聞のさけやすい方向でちぎることに気付き、次々と新聞豆を作り出す名人まで現れ、楽しそうに活動を進めていた。カラー印刷の部分を利用して、色付き新聞でお面を工夫するなど新聞の持ち味を生かすようになってきた。

また、レクの活動でもだんだん小さくなる広げた新聞紙の上に何人乗れるか、できるだけ長く切れないようにちぎっていけるかを競う活動も大いに盛り上がり、仲間づくりを促進することができた。誕生会に帽子になったり、もりあげのはりせんになったりと身近なところで新聞紙が大活躍をしている。

新聞紙が子どもたちにとって、身近な素材として浸透できたように感じている。



【新聞でつくろう～節分の様子】

4 実践の感想と今後の課題

(1) 実践の感想

今年度、NIEに取り組んでみて、新聞を購読していない家庭が増えている中、学校内に豊富に新聞があることで、さまざまな活動に活用できるようになった。

《教職員》

・子どもが新聞に興味関心を示し始め、NIEコーナーに置いてある新聞に学年を問わず、手を出すようになってきた。

・子どもからニュースや新聞記事の話題が出されるようになり、日記や授業中の発言で発信されるようになってきた。

・NIEタイムのワークシート等の言葉について、気になることを質問してくるようになり、そのことを通して言葉への関心が高まってきた。

→読解力（言葉にこだわり、話の内容の要点をつかむことができる）

・子どもが、今の社会情勢・問題についてたずねてくるようになった

→思考力、判断力（社会事象と自分自身のつながりを意識する）

・毎日の日記の内容や言葉が以前よりも充実してきた。

・道徳の授業で、NIEで学習したことをもとに発言する姿が見られた。

→表現力（記事に対する自分の考えを表現する）

・自分の考えを交流することで話し合い活動の充実ができた。

→話し合い活動による言語活動の活性化

→学級活動の基盤である仲間づくり

《保護者》

「学校に自由に新聞を読むスペースがあっていいと思った」

「休み時間に新聞を読む子どもがいることがすばらしい」

「新聞の話の家でもしてくるようになり、驚いている」

「家では本も読まない子が新聞を読んでいて驚いた」

「新聞が豊富にあることで、自由に授業に活用でき、様々な学習に新聞を使うことができるため、ありがたい」

教職員だけでなく、保護者の声もあり、新聞を使った学習への可能性を感じている。



【NIEコーナー（情報発信コーナー）で広報委員会の記事を読む子どもたち】

（2）今後の課題

子どもたちに NIE を通して基礎的な学力をつけるためには、教育課程の中に NIE を位置づける必要があると考えた。

そこで週に1度、全校でワークシートを使って NIE に取り組み、必ず振り返りを行う時間を確保した。この数年、それを続けたことで記事における目の付けどころや捉え方の違いに目が向き、一層の学習につながってきている。そして、本校の研究の中心である、道徳の授業の中で、子どもたちが道徳的価値に迫っていくような力がついていくことを目標につながりつつある。やりっぱなしの活動で終わらせることなく、計画的に進め、新聞と触れ合う楽しさや面白さに気付けば、子どもたち自らが新聞の世界に飛び込んでいけるはずであり、学習の様々な力をつけることができると考えられる。

低学年時から身近な教材として、新聞を取り入れる工夫も今後は考えていきたい。まだ十分に新聞を読むことができない学年でも取り組むことができる授業づくりや教科の壁を越える取り組みも全国大会で学んだことを生かし、取り入れていきたい。

自ら学ぶ力を育む授業づくり

～N I Eの良さを日常の授業に取り入れて～

中津市立山口小学校 教諭 小洞 純子

1. はじめに

本校では、子ども自ら学ぶ力（問題解決・情報活用能力など）をつけるためのツールの一つとして、数年前より、新聞活用を行っている。

学習内容と自分たちの生活をつなぐものとして、新聞記事を教材化したり、新聞記事を切り口として、単元課題を設定したりするなど、新聞を活用した授業実践に取り組んできた。また、学校司書を中心に、子どもたちが新聞を手に取りやすい環境づくりや、帯の時間のN I E タイムなどを行い、子どもたちも新聞を身近に感じるようになってきている。

今年度は、N I E実践校に指定していただき、引き続きN I Eの実践に力を入れてきた。さらに、夏に大分県で行われたN I E全国大会では、本校のこれまでの実践を分科会「学校図書館とN I E」で発表する機会をいただいた。

2. 実践の内容

(1) 授業実践

【国語】

○1年「カタカナ」

新聞記事からカタカナで書かれている言葉を探した。

○2年・4年「詩を書いて、新聞に投稿しよう」

朝日新聞「小さな目」に投稿することをゴールにし、目的意識をもって意欲的に詩を作ることができた。

○3年「スピーチ大会をしよう」

スピーチの題材を選ぶ際に、子ども新聞の記事を参考にした。

○4年「三光PR新聞をつくろう

～わたしが新聞記者～

「新聞の特徴と作り方を知り、記事にすることを決めて、伝えたいことが明確になるように文章を書くこと」をねらった。大分合同新聞社の宗岡記者をG Tとして招き、新聞の特徴や作り方の話をしていただいた。その話をもとに、三光PR新聞を作成した。作成の過程では、新聞を手元に置き、参考にした。デスク（G Tの記者）に作った新聞をみてもらい、合格をもらったら印刷発行。N I E全国大会で配布することができた。

県学校新聞コンクールにも出品し、オリジナル新聞部門で入選することができ、子どもたちも自信をつけた。いただいた講評や、新聞作りで学んだことを、2学期の総合での新聞作りに生かすことができた。

○4年「アップとルーズで伝えよう」

導入で、アップとルーズでとられた新聞記事（博多駅前の道路陥没）の写真を紹介した。

○5年「新聞を読もう」

大分合同新聞宗岡記者をG Tとして招き、新聞の構成や工夫を話していただいた。「G Tに見てもらおう」と興味をもった記事を切り抜き、感想を書く活動を行った。

○5年「生き物は円柱形新聞を作ろう」

新聞の構成や工夫など学習したことを生かして、説明文「生き物は円柱形」で読み取ったことを新聞にまとめた。

○5年「複合語」

複合語を学習したあと、新聞記事から複合語を探した。

○6年「学習討論会をしよう」

討論に必要な資料を、新聞記事から探し、自分の主張の根拠材料とした。根拠となる資料をたくさん集めていたため、活発な討論を行うことができた。

○6年「未来がよりよくあるために

～意見文を書いて新聞に投稿しよう～

導入で、新聞の投稿欄の中学生の意見文を紹介し、イメージを持たせ、自分たちも新聞に投稿しようとして学習課題を設定した。題材選びや意見の根拠として新聞記事を活用した。

できた意見文は、新聞に投稿し、6人が掲載された。

【社会】

○4年「警察の仕事」

地震の記事の中から、警察や消防などくらしを守る人々の活動を見つけた。

○4年「ごみのゆくえ」

ゴミ削減の取り組みの記事(いろいろな市町村)から、環境をよくするために自分のできそうなことを考えさせた。



【算数】

○3年「一億までの数」

導入で、新聞から一億までの数を探させ、興味をもたせた。自分の生活とつなげることができた。

○3年「小数」

身の周りから小数を探したあと、新聞記事から探した。新聞は、%で使われていることが

多く、まだ割合を学習していない3年生にとっては、少し難しかった。

○4年「小数」「大きな数」

新聞から、小数(大きな数)を探し、自分の生活とつなげさせた。

○6年「対称な図形

～オリジナルマークを作ろう～

導入で、東京オリンピックのエンブレムの候補の記事を紹介。「自分たちもオリジナルのマークを作ってみよう。」と投げかけ、そのために、対称な図形を学習していった。

○6年「資料の整理」

新聞からグラフを見つけ、興味をもたせ、自分の生活とつなげていった。

【理科】

○6年「生物と地球環境」

生物と環境の関わりについて調べ、国語でスピーチを行った。導入で新聞記事を紹介し、情報収集の際、新聞を活用した。

【体育】

○3年「バランスよく遊ぼう」

新聞紙にボールを載せて、ペアでバランスを取りながら運ぶ運動をした。新聞紙が破れないためにはどうしたらよいか、ペアで工夫しながら運ぶ姿が見られた。破れた時は、新しい新聞紙を使えるため、試行錯誤もでき有効であった。



【総合】

○3年「山口っ子探検隊」

探検して見つけたこと、分かったことを新聞に書くための参考として新聞を使った。

○4年「3つのつるにこめられた願いを
考えよう」

オバマ大統領が折った鶴の記事と、貞子さんのお兄さんがアメリカテロ後にアメリカに鶴を送った記事と貞子さんの物語を使い、こめられた願いについて考えさせた。



○4年「地域の名勝やきれいな場所を
アピールしよう」

調べたことを新聞にまとめた。1学期に国語で学習したことや講評をもとに、よりよい新聞を作っていた。

○6年「大塚さんとオバマ大統領の願いは
同じだろうか」

オバマ大統領が広島を訪れた時の新聞記事を使い、修学旅行で会った語り部の大塚さんの願いとオバマ大統領の願いについて考えさせた。



○6年「日本一 コスモスプロジェクト」

過去の三光コスモス祭りについての記事を導入で紹介し、三光のコスモス祭りを日本一にしようという学習課題を設定していった。

【道徳】

○6年

原発いじめの新聞記事を扱い、いじめについてそれぞれの立場から考えさせた。

(2) 授業以外での実践

【家庭学習】

○5年

日常的に宿題として読売ワークシートを活用した。

○3年以上

毎週、NIE担当が週末課題を作成。

朝日子ども新聞の「天声子ども語」を視写
→月に3回
新聞記事を読んで意見文を書く(4~6年)
読売ワークシート(3年)
→月に1回

【切り抜き新聞グランプリ】

大分合同新聞社主催の「切り抜き新聞グランプリ」の作品作りに取り組んだ。切り抜く新聞記事を選ぶために、新聞を読み、自分の考えを持ちながら作品を作り上げていった。

【帯の時間でのNIE】

○朝読書

2学期より、朝読書(10分)の時間に、週1回、新聞を読む曜日を決めた。本校では、多い時は7紙配達されてきているので、新聞を1人1部ずつ手にして目を通すことができた。また、新聞を読む曜日をクラスでずらすことによって、3~4日前までの新しい記事を読むことが可能となった。

○山口っ子タイム

聞きとりの問題として活用した。担任が気になる新聞記事を読んで聞かせ、その後内容を問い、子どもたちに答えさせた。聞く力が弱い子が多く、聞きとりの問題に取り組んでいる。しかし、なかなか聞きとりの問題に適した教材が少なく、新聞記事等を活用するアイデアは、有効であった。

(3) 環境整備

○新聞 NIEコーナーの設置

NIEコーナーを図書館前、子どもたちが通る廊下に設置することで、通りすがりに目にするができるようにした。学校司書が記事の件名ごとに付箋を貼りつけ、子どもたちが気になる記事をすぐに探せるようにしている。また、学校司書がスクラップもしてくれているので、必要な時に授業で活用している。



○新聞記事の掲示 (わくわくしんぶん)

学校司書が気になる記事をボードに貼り、記事を読んだ子どもたちがコメントを記入できるようにして、興味を持たせるとともに、感想の交流もできるようにした。



○子ども司書によるスクラップ

8人の子ども司書が各自で自由にテーマを決めて、そのテーマに沿った記事を切り取って、スクラップブックに貼り、感想やコメントをつけたスクラップブックを作成中。今後、そのスクラップブックを図書館で所蔵し、閲覧できるようにする予定。

3. 成果と課題

子ども自ら学ぶ力（問題解決・情報活用能力など）をつけるためには、教科書の情報だけでは足りず、図書館の本や新聞を活用することが必要となる。このように、ツールの一つとして新聞活用を行ってきた。その成果と課題は、以下の通りである。

成果

○地域の行事の記事から、課題を設定、実行委員会を発足し、実行委員を中心に地域行事へ参画したり、社会科で新聞記事の内容からより深く考えていったりするなど、新聞の情報をもとに広い目を持ち、自分の生活と学習をつなげていくことができた。

○数年前から、新聞記事を視写したり、新聞記事に対して意見文を書く課題を週末に出したりしているため、テストでの無解答率が減少してきている。

○NIEを実践した単元については、教育課程にNIEマークを加筆し、個人の実践に終わらず、次年度につなげられるようにした。

課題

NIEを目的とするのではなく、つけたい力をつけるためのツールの一つとしてとらえることを共通理解していく必要がある。授業者が、常にアンテナを張り、必要な情報を集めて準備しなければならない。学校司書との連携も大切である。さらに、教師側だけでなく、子どもたちが自ら情報を得るためのツールとして、新聞を活用していけるような実践を繰り返していきたい。

保健体育科におけるN I E

大分市立滝尾中学校 教諭 甲斐 広樹

(1) はじめに

本校は、2014年度からN I E実践指定校となった。N I Eの実践というと国語科、社会科での実践例が多いが、本校では主に保健体育科を中心に取り組むこととした。それは、保健体育の学習内容が、例えば『未成年の喫煙は悪い』といったようなすでに分かっていることを学ぶことが多いため、生徒が自分のこととして考えず、興味、関心を引き付けることが難しくなるという現状があるからである。新聞記事を教材に使うことで生徒にとってテーマが身近な存在になることができるのではないかということで取り組みが始まった。

昨年度までの実践では、保健分野においては高地トレーニングや熱中症の記事を取り上げ、トレーニングから期待される効果などについて学習を深めた。

また、体育理論においても新聞記事を使ってスポーツのルールやマナーについて考えさせ、運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について学習した。

新聞を活用することで生徒が意欲的に活動し、思考力、判断力、表現力が高まることを期待している。

(2) 保健体育科の取り組み

① 全国大会に向けたプレ授業

全国大会に向けて全国大会授業クラス以外で行った。授業後教科部会を開き、

授業の改善点について話し合いを行った。

〈プレ授業での改善点〉

- ・新聞記事をより効果的に活用して、めあての達成を図る。
- ・生徒が身近な問題として感じられるように同年代(中学生)についての記事も取り入れる。
- ・まとめの工夫をする など



「プレ授業の様子」

② N I E 全国大会

第21回N I E全国大会大分大会で3年8組が公開授業を行った。保健分野「生活行動・生活習慣と健康」の単元で授業を行い、「大分県民は運動不足」と見出しが見ついた新聞記事を活用した。班ごとに、運動不足を解消するためのアイデアを出し合った。多くの参加者の中で授業を行い、生徒も自分の考えをしっかりと発表することができた。保健体育科での取り組みは珍しく、困難なことも多かったが無事に公開授業を行うことができた。



「公開授業の様子」

③レポート課題

2年部の取り組みとして新聞記事を読んで自分の意見をまとめるレポート課題に取り組んだ。運動やスポーツへの興味・関心を高めることをねらいとして、長期休業中の課題とした。生徒は自分の意見をまとめるために、新聞記事を何回も読み返しレポートを作成することができた。



「レポート課題」

(3) 環境整備

生徒が、広く新聞に興味を持つために校内の図書館に「NIEコーナー」を設け、自由に新聞が読めるスペースを設けている。



「図書館のNIEコーナー」

また、廊下掲示板の「体育NIEコーナー」では、記事と生徒のコメントが書かれたものを掲載し、生徒の興味、関心を引き付けるようにしている。



「体育NIEコーナー」

このように保健体育科を中心にNIEの取り組みを進めているが、職員側の研修としては、毎月行われている「大分県NIE実践研究会」に保健体育科だけでなく他教科の教員も参加するようにして、この取り組みを全教科に広げていくように進めている。

(4)他教科での取り組み

○社会科での取り組み

公民分野などで学習したことに関連する新聞記事を廊下に掲示したり、授業で示したりしている。学習したことが新聞記事に掲載されているのを読むことで、興味・関心が高まっている。

○2学年の高校調べ

2年生は、進路学習として高校調べを行った。各班で高校について調べ、「高校新聞」を作成した。生徒は、自己の進路を考えるよい機会となり新聞の形式でまとめることにより、新聞の構成について学ぶことにもつながった。



「高校新聞」

今年度は、全国大会での公開授業が大きな目標であり、準備を進めてきた。多くの方々のご指導・ご支援があり、全国大会も無事に終えることができた。授業後の生徒は、自分たちの記事が取り上げられることがうれしいようで自信につながっている。

授業では、保健の授業を中心に新聞を資料として活用することを研究してきた。生徒にとって、新聞記事は身近であり、最新のデータであるので興味・関心を高めることに非常に効果的であると感じた。課題として、授業に適切な記事を探すことに時間がかかることが挙げられる。研究の資料などを共有し、保健体育科で継続して取り組めるようにする必要がある。

滝尾中学校の取り組みは、少しずつ他教科にも広がりを見せている。今後も継続的な実践としたい。

(5)実践の感想と今後の課題

N I Eの実践指定校となり、本校では保健体育科が中心となって取り組みを続けてきた。

「磨き合う力」の育成

～思いや考えを深め合う新聞活用～

大分市立判田中学校 教諭 進 麻美

1. はじめに

本校は平成26年度から「磨き合う力の育成」を研究主題とし今年度で3年目になる。サブテーマに新聞活用を設定し、NIEによる実践を進めている。

昨年度は新聞を取り入れた授業実践を学年研と個人研で行った。学年研では3年生は「ともに生きる」というテーマ設定のもと、1年間無遅刻、無欠席の目標を掲げ、仲間とつながり合うことで、お互いを励まし合い、支え合いながら目標を達成した新聞記事から「つながり合う」ことが自分自身の成長につながることに気づくことができた。

2年生では自分やクラスメイトについて様々な視点から幅広く見つめることを通して、他者に共感して思いやりの心や、お互いの良さを認め合う心を育てることを目指した。自己理解だけでなく、他者から見た自分を知ることによって新しい自分に出会い、自ら成長していった新聞記事を授業のまとめとして使用した。

1年生では職業人の生き方を知ることのできる新聞記事から、その仕事を始めたきっかけ・大変なこと・やりがいなどを読み取らせ、「働くこと」の意味や大切さを考えたうえで自分の進路選択をすることに気づかせた。

個人研では各教科で新聞を授業の「導入」や「展開」「まとめ」の各過程で新聞を取り入れた実践を全教科で行った。9教科で実践が行われ、新聞を取り入れることで、生徒の興味や関心が高まり、読み取る力、情報を精選する力、自分の考えを相手にわかりやすく伝える力が身に付くことがわかった。新聞の本文だけではなく、

リード文を利用することも効果的であることが国語科の実践で検証されている。

2. 実践の概要

(1) 昨年度の取り組みから見えた課題

- ①新聞活用により、生徒の表現力や思考力がどう変化したか
- ②アクティブ・ラーニングによる全教科、全領域による取り組みの結果、生徒がいかに変容したか
- ③4人班により個人の考えが広がり、それがどのように個人を高め、集団を高めたか
- ④教師と生徒が主体的につくる協働授業のあり方
- ⑤生徒の主体性が見える授業のあり方

(2) 本年度のテーマ

「磨き合う力の育成」

～思いや考えを深め合う新聞活用を通して～
新聞という生きた教材を継続的に扱うことで生徒自身の主体的な学習意欲が向上し、生徒が継続的に新聞を読むことで、ものの見方や考え方や感じ方が広がり、それを伝え合う（言語活動）ことで他者理解が生まれ、社会の一員として共に生きる意識が明確になると考える。

(3) 新聞に興味をもたせる学校環境づくり

ONIE教室を特設するとともに図書館や各学年のフロアに新聞の閲覧コーナーを設ける。これは判田中の文化として定着している。図書館や各学年のフロアに新聞がいつもあることで社会の動きに興味をもつことができる。

NIE教室には6紙の他、各学年が作成した新聞を掲示している。中でもよく生徒が見て

いたのは、中学3年生が各高校に体験入学に行き、作成した「高校新聞」である。これからは進路実現をめざす中学2年生にとっては興味深かったようで、熱心に読んでいた。

(4) メディアリテラシーを育むための新聞活用のあり方

○1 分間スピーチ

1分間スピーチは3年間継続することに意味がある。3年間を見通した取り組みをすることで学年ごとに相手に伝える力や思考力が高まっていく。

クラスメイトのスピーチを聞くことで自分が知らなかった社会の出来事を知るとともに、自分とは違う社会に対する見方や考え方の一助となる。

自分がスピーチをするために新聞を読むことで、社会と向き合う一歩となり、自分から興味をもった出来事をさらに調べてみようという意欲を喚起する。

スピーチは単なるスピーチではなく、社会と自分とつなぐ架け橋となる。これからも判田中の文化として継続していきたい。

○コラムの視写、意味調べ、要約（1、2年生朝自習）

(5) 学年研・個人研による授業づくり

3年部による学校研究

1学期は8月5日の公開授業を念頭に入れ、昨年度実践した授業を基礎に新聞活用を通して「思いや考えを深め合う」ことを目指す授業づくりをした。その中で、課題解決の力の育成、生徒自身の主体的な学習意欲の喚起、ものの見方や考え方の広がり、読んだことを伝え合う（言語活動）ことで他者理解が生まれ、社会の一員として生きる意識が明確になると考えた。

8月5日からの公開授業に至るまで昨年度から継続した取り組みがある。アクティブ・ラーニングのジグソー法によるエキスパート

班とジグソー班を取り入れることである。これにより、自分で得た情報を責任をもって相手に伝えることや、それぞれが違う情報を持ち寄り、共有することで、情報を伝達する力が高まることが期待できた。

①6月15日「未来の自分の生き方を考えよう」

※全国大会を見据えた事前授業の取り組み（指導目標）

- ・新聞記事の3人（北島康介、浅田真央、内川聖一）の生き方から、これまでの自分の生活を振り返り、これからの自分のよりよい生き方の実現に向けて、日常生活を改めることができる。

（授業展開）

- ・アクティブ・ラーニングの知識構成型ジグソー法による授業を展開した。
- ・前時のエキスパート班で読み取ったことをジグソー班で共有する場面に時間をかけた。
- ・3人の人物像から共通する部分や独自な部分を明らかにさせ、それぞれの生き方を伝える場面を重視した。
- ・これから自分が生きていく上で参考となることや実行しようと思うことを述べる場面では生徒それぞれの考えに自分らしさができていた。
- ・班学習は4人班を基本とし、個人の意見を出し合った後、共通点をまとめたり、相違点については効率的な合意形成の仕方等を繰り返し訓練した。
- ・生徒自身の自分自身の内から出た言葉を引き出す手立てや、生徒の本気度が見えるような工夫について指導の統一を図った。

②8月5日全国大会公開授業

「未来の自分の生き方を考えよう」

（指導目標）

- ・自分の生き方について、新聞から生き方の多様性を学んだり、人物の生き方について考えることを通して、今の自分の課題を明

確にするとともに、これまでの自分の生活を振り返り、自らの意志と責任で行動できるようにする。

(授業展開)

- ・前時の活動からエキスパート班の代表者にA～Cそれぞれの記事の概略を発表させる。
- ・Aは海外で活躍する女性土木技術者の阿部玲子さん。
- ・Bは自らも障害者でユニバーサルデザインのコンサルティング会社を設立した垣内俊哉さん。
- ・Cは義足で世界に挑むアスリートの中西麻耶さん。
- ・ジグソー班になり、3人の生き方の特徴をまとめさせる。
- ・付箋の活用により、エキスパート班で読み取れた事実や人物像をジグソー班に効率よく伝えさせる。
- ・ジグソー班で伝え合うことで、自分が読んだ人物以外の共通理解ができ、3人の人物像が明らかになる。
- ・これから自分が生きていく上で、参考になることや実行しようと思うことを、発表する。

2年部による学校研究

- ・9月21日「職業の理解を深めよう」

(指導目標)

- ・新聞の人物紹介記事と職場体験で学んだことをもとに、職業人としての心構えについて考えさせるとともに、働くことの意義について気づき、働くとは実際どういうことか興味・関心をもって考える態度を養う。

(授業展開)

- ・前時にエキスパート班で読んだ四つの記事の概略を代表者に発表させる。
①衛藤宏章さん②三山慧さん③三輪瑛さん
④鶴丸礼子さん
- ・記事の内容から将来の職業を選択するうえで

で大切にしたいことを考えさせる。

- ・職場体験で学んだ中から、働くうえで大切にしたいことを考えさせる。

1年部による学校研究

- ・10月19日 道徳(正義・公正・公平)
資料名「二通の手紙」

(指導目標)

- ・2016年リオオリンピックに関する新聞記事を用い、様々な立場や角度から物事を考える必要性に気づかせる。
- ・根拠に基づき、自分なりの判断をもたせる。

(授業展開)

- ・オリンピックに関する新聞記事を読んで、華やかな一面ばかりではないことを知らせる。
- ・「二通の手紙」を読み、状況について整理をする。
- ・自分が主人公だったらどうするかを考え、意思表示をさせる。
- ・いろいろな立場からどうするかを考えさせ、班で意見交流をさせる。
- ・意見交流をした後、もう一度自分ならどうするか意思表示をさせる。

個人研究

- ・家庭科

「幼児の生活と家族」

<めざす生徒の姿>

『中学生である自分がなぜ今、乳幼児について学習するのか』その意義に気づき、目的意識をもって1年間授業に臨むことができる生徒

<めあて>

「中学生が乳幼児について学ぶ意義」を新聞を読み取ることによって気づくことができる。

- ・社会科

「人々の生活と環境」

<めざす生徒の姿>

「新聞記事から高地であるペルーと日本の関係を知り、高地の地域と日本との共通点を4人班で話し合うことで高地の生活を身近に考えることができる」

〈めあて〉

ペルーと日本のつながりから高地の人々と日本の共通点で気づくことができる。

・英語科

「Let's Listen2 世界の天気予報」

〈めざす生徒の姿〉

「自分が知りたい地域の天気予報を聞き取ったり、相手の知りたい地域の天気予報を英語で伝えたりすることのできる生徒」

〈めあて〉

天気予報を聞き取り、天気予報を使えるようになる。

・音楽科

「日本の歌の美しさを味わおう『荒城の月』」

〈めざす生徒の姿〉

記事を通して、大分にゆかりの深い滝廉太郎や代表曲についても関心をもつことができる。

・美術科

「アートガラス～自分だけのオリジナル～」

〈めざす生徒の姿〉

新聞の中に彩られる様々な模様を見つけ、そのデザインされたものでもあることに気づくことができる。

〈めあて〉

新聞の中にある模様を見つけ、自分の作品づくりに生かそう

・国語科

「情報の集め方を知ろう」

〈めざす生徒の姿〉

5WIH…「いつ、だれが、どこで、何を、なぜ、どうした」を意識して、新聞記事を読んだり、必要な情報を整理し、わかりやすい構成で書いたりすることができる。

3. 成果と課題

3年部の取り組み…中学3年生にとってはNIEの取り組み3年目となり、ここまでの成果として「文章構成力が身につき、社会の出来事に関して興味関心が高まった。」「新聞を毎日読むことで、社会の出来事を自分のこととして捉え、身近に感じるようになった。」「社会の出来事に対する考察が深まり、思考の幅がひろがった。」などが確認されている。

アクティブ・ラーニングのジグソー法によるエキスパート班とジグソー班の学習活動を継続したことで、自分で得た情報を責任をもって相手に伝えることやそれぞれが違う情報を持ち寄り、共有することで、情報を伝達する力が高まった。当日の生徒の姿こそがその力の獲得を示した。

2年部の取り組み…昨年度は「働くこと」に興味をもち、働く意義を考えた。働く意義はそれぞれの価値観によって違うが、今年は働く人を支えるものを深く感じることができた。これは昨年度の学年代表による公開授業が土台となり、今回は職場体験と新聞とを合わせて生徒ひとりひとりが考えることができたことによる。

授業に用いられた新聞の内容が精選されていたことで、生徒が「働くこと」に対して粘り強く取り組み、自分の学習活動を振り返って次へつなげる主体的な学びの過程ができた。まさにアクティブ・ラーニングを実現する三つの視点につながった。

1年部の取り組み…生徒が考えを出し合うことで生徒の考えが変容した。このことから、アクティブ・ラーニングを実現する三つの視点の中の対話的学びができたのではないかと考えられる。生徒は他者と話し合うことで自分の考えを広げ、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から理解することができた。今後道徳の評価は数値ではなく個人内評価を記述式で行い変容がわかるようにしていきたい。

主体的な学びを引き出すNIE

中津市立東中津中学校 教諭 長松 涼子

1 はじめに

本校は今年度 NIE 実践指定校 2 年目に入った。NIE の活動を、授業改善の一つの手だてとしてとらえ、取り組みをすすめている。

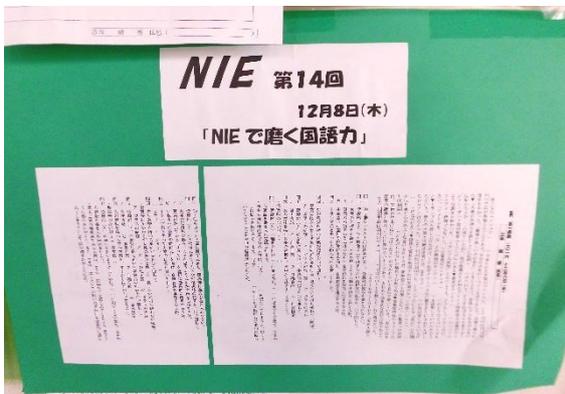
昨年度の取り組みを受け環境整備が整った今年度は、生徒が楽しく主体的に取り組める活動や学校司書と連携した授業づくりに力を入れていった。

2 実践の内容

(1) NIE タイムの取り組み

毎週木曜日 8:15～8:45
全校一斉

- ・ワークシートの読み取り、意見交換
- ・新聞スピーチ
- ・切り抜き新聞作成
- ・ハガキ新聞作成
- ・条件作文、意見文作成



(2) 学校司書と連携した授業づくり



○授業者と司書の打ち合わせ

授業者が授業構想や必要な記事の数などを説明し、どのような授業が可能かを司書と相談する。

司書作成の分野別スクラップが充実しているため、授業の幅が広がる。また授業者の準備に要する時間短縮にもつながっている。

学校司書同士のネットワークが充実しているため、自校に必要な記事がない場合は、他校や市立図書館などから借りることができる。



○授業の中での司書の関わり

導入で記事の読み聞かせをしたり、生徒が必要な記事を探す手助けをしたり、授業者のサポートを行っている。

必要な記事をすぐに渡すのではなく、見出しを見て探すように助言したり、関連本を準備してそこから探せるようにするなど、生徒が主体的に学ぶよう配慮している。今年度は、切り抜いた記事ではなく、1部の新聞をまるごと渡してその中から必要な記事を選ばせたいと意図しているため、多少時間はかかるが、記事を探すまでの過程を大事にしている。その際も司書の支援は非常に有効であった。



また、各教科の授業で発信の手段として新聞づくりを取り入れることが増えたが、その際も、レイアウトの仕方などの読みやすい新聞作成のポイントについて、日頃図書室や新聞コーナーに掲示している司書作成の掲示物を活用しながら、司書に随時アドバイスをしてもらった。色画用紙を使っての装飾の仕方など、いろいろなノウハウを教えてくれるので、生徒も楽しみながら作成していた。



国語古典紹介 はがき新聞



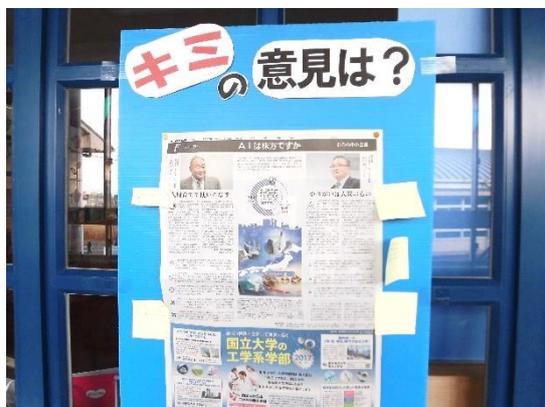
1年総合 自主研修場所 PR 新聞



1年国語 環境問題について発信

3 環境整備

図書室前や階段の踊り場に新聞コーナーを設け、生徒が新聞に親しめる環境を整えている。「今日の一面」の前に立ち止まって友達同士で記事について話している姿が日常的になってきた。



生徒が付箋に意見を書いて貼るコーナー



担任が教室に今日の新聞を掲示
話題にしてスピーチ等に生かす。



NIE タイムで扱った記事の関連記事や
関連本を設置。発展学習に生かす。



図書室前の新聞閲覧台

4 成果と課題

今年度は、「楽しく気軽に新聞に親しもう。」をモットーに取り組みを進めた。

幸い新聞が毎日6紙届くという恵まれた環境にあったので、学活や道徳、総合的な学習においても、「ちょっと新聞を使おうか。」「新聞の形にまとめてみようか。」「新聞を使って発表させてみようか。」と気軽に新聞を使うことができた。

各教科の授業においても、クラスの人数分新聞が必要なときは、新聞販売店にもらいに行くなど、丸ごと新聞1部を生徒に与え活用することが多くなった。

新聞を活用した取り組みを行うことで、社会の出来事に興味を持ち、自分の意見を発信することが当たり前になりつつある。朝の会でのスピーチや授業で話題になったことを確かめるために、新聞を読みに集まる生徒も増えた。

また、新聞を比べ読みする活動も多かったが、そうすることで、記事の情報をうのみにせず批判的に読む意識も芽生えてきた。

このように新聞が当たり前のように周りにあることで、生徒の知識の幅や物事に対する関心の幅が確実に広がっている。

生徒自らが新聞を掲示したり、環境を整えたりする主体的な姿も見られるようになった。

今後は、生徒の自主的な活動として生徒会活動の中に新聞活用の取り組みを広げたり、年間指導計画の作成など、ねらいを明確にして組織的、系統的に活動できるよう整備していきたい。



新聞で社会に目を向けよう

～生徒が主体的に思考・判断・表現するために～

豊後高田市立高田中学校 教諭 鈴木 惟真、桑原 美香

1. はじめに

本校は、平成 23～24 年度に日本新聞協会の NIE 実践指定校として「新聞による言語能力の育成をめざして」研究を行ってきた。授業実践では、意図的に新聞を活用し、教材としての有用性について探った。また、毎週木曜日に「NIE の時間」を設け、新聞を使ったワークシートに取り組んだ。

平成 25 年度以降は校内研究の研究主題を「授業改善」とし、魅力ある授業・確かな学力をつける授業の工夫の一つとして、新聞や図書館を活用した授業に取り組んできた。実践指定の有無にかかわらず「NIE の時間」や掲示物の整備を引き続き行い、新聞を身近に感じられる環境づくりに励んできた。

NIE 全国大会大分大会で実践発表を行うため、昨年度から再び実践指定校となった。昨年度からの 2 年間は、平成 23 年度から継続してきた NIE の取り組みを振り返り、成果と課題を確かめ、「高田中の長所は何なのか」「全国大会でアピールできる点はどこなのか」を探りながら、実践を試行した。

2. 今年度の取り組み

「新聞を学校生活の中に取り入れ、どのように活用していくか」という方向で実践を進めてきた。

- (1) 新聞を身近に感じさせる取り組み
「新聞を読もう、新聞で社会に目を向けよう」
- (2) 授業等を通して、思考・判断・表現する力を伸ばす取り組み
「新聞を通して考えよう」

の二つの視点で活動を行っている。

特に (2) では研究主題「授業改善」の下で課題解決に迫るツールの一つとしての新聞活用を試行していった。

○組織

校務分掌で各学年に NIE 担当を位置付け、授業づくりの呼び掛けや「NIE の時間」の計画・準備に取り組んでいる。

○方向性

全教科・全領域で新聞を活用した実践を目指す。

3. 具体的な実践の概要

(1) 新聞を身近に感じさせる取り組み

① NIE コーナーを設置し、新聞に親しむ環境を作る。(NIE 担当や生徒会広報部の生徒が新聞の切り抜き等を掲示する)

② 新聞コーナー

各階と学校図書館に設置し、朝読書や休み時間等に読める環境をつくる。

③ 新聞づくり講座

全学年の生徒会広報部を対象に NIE 担当が新聞づくり講座を開いた。この学習を生かして、生徒は学級壁新聞を作成する。



(2) 授業等を通して、思考・判断・表現する力を伸ばす取り組み

理科での活用例

〈単元〉大気の動き（偏西風）

〈授業の内容〉

日本付近（中緯度）の上空には、強い西風（偏西風）が吹いている。この偏西風の影響で、日本付近の移動性高気圧や低気圧は、西から東へ移動する。

〈成果〉

2016年1月25日（月）の新聞記事を使うことによって、日本の気象現象にはさまざまな要因（ブロッキング高気圧や偏西風の蛇行）があることが分かった。

学習内容について新聞記事を基にして、身近な生活に照らし合わせて振り返らせることができるので、新聞記事の活用は有効であった。生徒はとても寒かった日のことを思い出して、その日の生活を思い出して話していた。



授業振り返りの様子

1年国語「ダイコンは大きな根？」

ミニ新聞づくり

〈授業の内容〉

〔問題提起〕→「解明」という説明の流れを本文で学習した後、「野菜や果物の不思議を新聞に書いて知らせよう」という内容で、図書館での調べ学習を行い、調べた内容をミニ新聞にまとめる学習を行った。

〈成果〉

「見出しや小見出しをどんな言葉にするか」「イラストや写真の位置はどこがよいか」など、

実際の新聞を参考にしながら、効果的な表現の仕方について考えることができた。

学級活動

○1, 2, 3年「学級壁新聞づくり」

「これまでの学級の歩み、軌跡を振り返り、壁新聞にまとめ、披露することで、学級の団結を図る」というねらいで作成する。文化祭の目玉の取り組みの一つで長い歴史がある。今年はNIE担当が広報部の生徒に「新聞づくり講座」を行い、広報部の生徒が編集長となってチームを作り、制作に取り組んだ。

当然だが新聞の構成力や文章力、記述力など生徒の力には差が大きい。しかし、「新聞づくり講座」を受けた生徒会広報部を中心に声掛けして活動する中で主体的に制作する姿が見られた。



壁新聞制作風景



ステージで壁新聞を紹介



体育館での展示



新聞づくりのコツを説明する様子



ミニ新聞制作風景

○ミニ新聞づくり

1年生「教育合宿新聞」

2年生「修学旅行新聞」

「職場体験学習新聞」

学習のまとめとして、1・2年生でミニ新聞を作成した。まとめることが苦手な生徒も、「新

聞」という様式があるだけで、「伝わるように書く」という姿勢が見られた。

各教科領域

○「NIEの時間」の実践

毎週木曜日に「NIEの時間」を45分間実施している。

- ①ワークシートをする
- ②スクラップをする
- ③各種コンテスト等の作品づくりなどを行う時間になっている。

①情報の読み取りを行い、自分の意見や感想を書くという流れを基本にNIEの担当が相談しながら、ワークシートを作成している。B4判で、裏面はコラムの視写を行う。内容は、各教科に関係するもの、道徳的な内容に関するもの、その時の社会に密接に関係するものなど、多様な内容に触れられるよう配慮している。また、新聞記事の表やグラフから情報を読んだり、数紙の新聞記事を比較して読んだりするワークシートなど、新聞の特徴を生かすよう意識している。

本年度のワークシートの題材

- 4月28日 東京オリンピックエンブレム
- 5月12日 もうすぐ伊勢志摩サミット
- 5月19日 **プロ野球「広島VS巨人」**
- 6月2日 SNS
- 6月9日 CM「三太郎強し」
- 6月30日 英国EU離脱
- 7月14日 熱中症
- 9月29日 G I

(地理的表示保護制度)

「大分かぼす」「豊後まぐろ」

- 10月13日 映画「君の名は。」
- 10月20日 チームラボギャラリー真玉海岸
- 12月1日 VR (バーチャルリアリティー)
- 12月15日 2016回顧
トランプ大統領・今年の漢字



- 1月19日 方言をしゃべる自販機
- 1月26日 75歳以上の高齢者ドライバー
- 2月9日 広島折り鶴再生

【題材となる記事とワークシートについて】

○比較できるように並べて載せた資料づくり



B



・設問例1

二つの記事の内容を表に整理してまとめよう

・設問例2

二つの記事のうち、優れていると思う方を選び、理由を説明しよう

○ワークシート

・設問例1について

見出しや記事本文の量、写真などの違いに着目していた。

・設問例2について

「前向きでどちらが聞いているのでAの記事の方が受け入れられやすいのではないかな」などの意見が出た。

NIE担当が独自に作成している。

②自由に新聞を読み、自分の気になった記事を切り抜く時間である。学年ごとに行うことが多い。スクラップのシートは、「切り抜いた記事を貼る」欄、「その記事の内容をまとめる」欄、「なぜ、その記事を選んだのか、友だちに知らせたいことは何か、感想などを書く」欄の3つを設けている。1時間でスクラップシートを作り、後日、クラスでそのシートを基に交流したり、スピーチに使ったりしている。「〇〇さんが発表

した記事はとても面白かった」「自分の知らないことが多くて、もっとニュースとかを見た方がいいなあとと思った」「〇〇さんの意外な面が分かった」等の感想が出てきた。



③私の新聞づくりコンテストへの応募

9月、「NIEの時間」に新聞づくりコンテストに向けての調べ学習や新聞づくりをした。題材を自ら選び、調べ、まとめるという活動へ主体的に取り組む生徒の様子が見られた。



全校生徒が作成に取り組んだが、体育大会の練習や準備と重なり、締め切りまでに全員が完成に至らず、約200人の生徒がコンテストに応募した(約65%)。その中で、1年生の作品が中学生の部の最優秀賞を、2年生が佳作を頂いた。

4. 成果と課題

成果

○昨年度行ったアンケートを基に生徒の実態を確認しながら実践をすることができた。

○「授業改善」という研究テーマに沿って、ツールの一つとして「新聞を活用する」視点が明確にできた。新聞で実際の状況や数値を確認で

きることは、生徒の関心を強く引くことができる。

○運営委員会や職員連絡会等で、各教科領域で新聞を活用するという雰囲気をつくることで、これまであまり実践が進んでいなかった科目でも必要に応じてNIEができた。

○「NIEの時間」やワークシートは、長年の積み上げがあり、地道に継続している活動である。意識しないうちに生徒の読む力が少しずつ蓄積されてきているようである。また、生徒の声として、「世の中のことや、最近の情報を得ることができるので意欲的に取り組める」「長い文章を読むことが速くなった」「他の人の考えを知りたくなる」等の反応があり、良いイメージを持っていることが分かる。さらに「新聞づくりの活動は難しかったが、進んで取り組めた。もっと回数を増やしてほしい」という声もある。新聞から話題を見つけ、主体的に取り組む姿勢が多く見られた。

課題

○NIEの研究組織として、各学年の担当や各教科の担当との綿密な連携が今まで以上に必要である。また、小学校での取り組みと連動させ、学習の効果を高めることが必要である。

○授業においては、「ただ新聞を使えばよい」というNIEから「生徒に力がつくために有効」であるNIEに移行していく必要がある。指導上有効な単元を各科目で共有するなどの体制を整えることができるとうい。

○図書館利用と連携しながら新聞活用を進めていくことも「思考・判断・表現」には大変有効である。司書教諭との連携が効果的なため、綿密に話し合い等を進めていく必要がある。

「学び合い、つながり合う学級・学年づくり」

～NIEを活用し、共感的人間関係を育てる授業の工夫～

白杵市立北中学校 教諭 後藤 真理

1、はじめに

本校はこれまで、NIEを活用し、授業内容を深めることで、生徒同士の共感的人間関係づくりをめざしてきた。各学年とも活発な取り組みを行い、人間関係づくりに寄与した部分大きい。今年度は、NIE全国大会大分大会・特別分科会での「NIEのカリキュラム化」についての報告もあり、その発表に向けて、生徒一人ひとりが自ら学び、自分の考えを相手に伝える表現力を育成しようと、様々な研究を進めてきた。しかし、それぞれの取り組みは進んだものの、子ども同士のつながりが深まるまでには至っていなかった。発達段階にも関係しているが、思いを伝えることはできても、聞く側が受け止めて、そのことを返し深められていなかった。そこで、昨年度のテーマを引き継ぎながら、さらに、生徒同士のつながりが育つような取り組みをさらに進めることとした。

2、実践の概要

(1) 学年の目標

- 1年生・・・NIEを通して、自分の考えを持ち、お互いに伝えあうことができる。
- 2年生・・・NIEを通して、自分の考えを持ち、相手の学びを受けとめることができる。
- 3年生・・・NIEを通して、自分の考えを的確にまとめ、お互いに伝え合うことができる。

(2) 実践内容

- ① 朝学習でのNIEの視写
- ② 宿泊研修や職場体験での経験や学んだことを、新聞にまとめ、発表交流会につなげる。
- ③ 各教科での取り組み
- ④ 縦割り新聞作り

3、具体的な取り組み

(1) 活動経過

- 4月27日(水) 年間計画の確認、昨年度までの流れと今年度の方向性の確認
- 5月16日(月)～ 2・3年生、月2回以上、朝の学習タイムにてNIEタイム実施(視写、感想、意見交流)
- 6月3日(金)～ 1年生、宿泊研修後の葉書新聞づくり

- 6月22日(水) 1学期のとりくみ報告(全体)
- 7月6日(水) NIE部会で授業実践例の出し合い
- 9月1日(木)～ 2年生、職場体験新聞作り
- 11月7日(月)～ 1年生 ちぎり絵
- 1月23日(月) NIEの取り組み状況報告会
- 1月30日(月) 1・2年縦割り新聞づくり

(2) 環境づくり～身近に新聞を読める環境の工夫～

- ①各学年の教室前に新聞掛けを設置。
- ②ホールや学年掲示板にNIEコーナーの設置。
(ホールのNIEコーナーは全学年で取り組み月毎の学年輪番制に設定)
- ③図書室に「中学生ウィークリー」・「おすすめ図書を紹介」・「職業人記事」などの紹介コーナーを設置。
- ④職員室に貸出書籍・資料置きを設置。



学年輪番制で実施する、全校NIEコーナー。

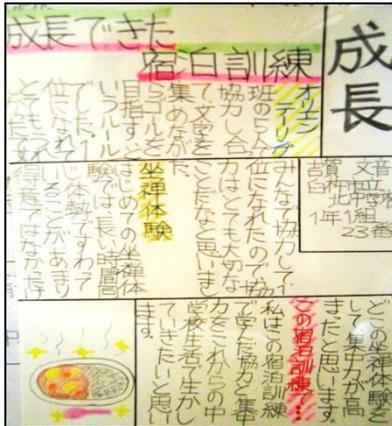
(3) 活用

- ～日常の学校生活や授業において、生徒が新聞を読み、活用できる工夫～
- ①NIEタイムの実施。(月2回以上)
 - ②学年・学級・教科通信で記事の利用。
 - ③生徒が気になる記事を選び、感じたことを短学活の1分間スピーチで発表し他の生徒と交流する。
 - ④各授業での活用。
☆日常の学校生活や授業において、生徒が新聞を読み、活用できる工夫

- 1年生・・・NIEタイムの継続・通信で記事の利用
- 2年生・・・NIEタイムの継続・通信で記事の利用・1分間スピーチで気になる記事を発表
- 3年生・・・NIEタイムの継続・進路学習へ記事の利用など

☆総合学習の目的にNIEを加え、1年間の活動計画を作成。

- 1年生・・・宿泊研修の「葉書新聞」づくり (1学期)
- 2年生・・・職場体験新聞づくり (2学期)
- 3年生・・・新聞記事を使った意見文や条件作文づくり



宿泊研修のまとめ「葉書新聞」(1年生)

(4) 実践① ～朝の学習タイムにおけるNIEの取り組み(2年)～

①取り組み概要

2年生は、1年時に、新聞コラムの切り抜きを視写してきた。2年生になり、NIEタイムの時間を充実させるために、教師が生徒の実態や行事、考えて欲しい内容(平和、人権、環境、共生)に合わせた新聞記事を探しだし、コラムを作成した。その視写と共にタイトルをつけさせ、要約と私見・感想も書かせるように取り組み方を変えた。これは、生徒にとって「タイムリー」な内容であった。

②取り組み時間 8:00～8:25

- ③主な活動
- i. コラム用のノートに、コラムを貼る。
 - ii. コラムを視写する。
 - iii. コラムに題をつける。
 - iv. 自分の感想や意見を書く。
 - v. わからなかった語句を調べる。

④コラムの内容

コラムは、教職員が、生徒の実態にあわせて(時事問題、行事、生活行動の中で考えるべきことなど)、新聞や広報誌など、様々な文章を参考にして、要約し、子どもが読みやすいように、編集している。

コラムの内容	ジャンル
第1回 バリアフリー道場NIE	人権
第2回 数字と言葉の力	支え合い
第3回 障害者差別解消法とNIE	人権
第4回 マイクロプラスチック汚染	環境
第5回 『勝ちたい』気持ちが	向上心
第6回 迷信	人権
第7回 社会を変えられる一票	時事問題、人権
第8回 誰にも優しい社会へ	人権
第9回 本とペンを	平和
第10回 初心	生き方
第11回 私を	生き方
第12回 大分大学生	生き方
第13回 心は言葉によって	人権
第14回 性同一性障害の子どもたち	人権
第15回 もっとじかんがあれば	生活
第16回 人と人をつなぐ言葉	人権
第17回 いのち体感中	いのち、食育
第18回 睡眠の質	健康

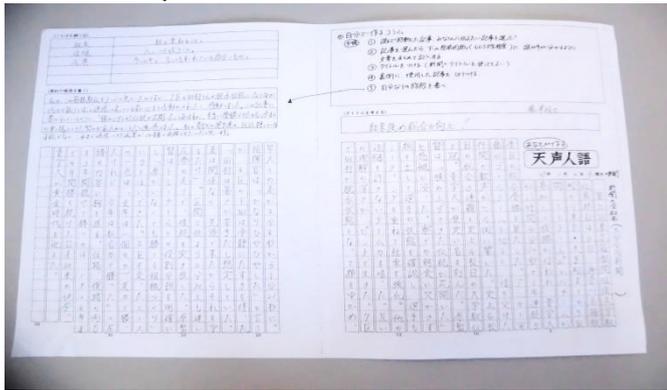
実践② ～自分でつくるNIEコラム(2年)～

週に1度、朝のNIEタイムで視写を続けている2年生に、長期休みを利用して、NIEのコラムを作成させた。これは個人で取り組ませた。まず、興味のある記事を抜き出し、次に、要約して、約600文字にまとめる作業である。生徒にとっては、かなり難しい様子であった。伝えたい内容を中心に要約することは、難しいことではあるが、文章をしっかり読み解き、まとめる力につながることが出来た。1度目の夏休みの課題の時は、なかなか思うように進んでいなかったが、2度目の冬休みの課題では、新聞記事に線を引いたり、考えをまとめたりにして記入するなど、上達が見られた。今後は、この作品を、朝のNIEタイムに利用していきたい。



新聞の切り抜きに線を引いて要約をする

自分でつくるNIEのコラム



実践③ ～1年生文化祭展示、
新聞を利用してのちぎり絵～

文化祭の展示として、1年生は「ちぎり絵」に取り組んだ。このちぎり絵は、毎日届けられた新聞を再利用したものである。それぞれのクラスでテーマを決め、班ごとに描く題材をみつけた。担任の教科と関連づけ、社会(世界遺産)、体育(スポーツ)、国語(百人一首)をもとに作成した。

約2週間をかけて、地道な作業を繰り返し、表現力の豊かな作品が出来上がった。文化祭当日に掲示し、生徒だけでなく、多くの方に見てもらえることが出来た。



1年生も、出来栄えに満足していた。

実践④ ～1・2年合同 縦割り新聞づくり～

- 1,目的 NIEの取り組みの一環として、異年齢のチームにより新聞づくりを行う。
2年生は、これまでのNIEの活動を生かしながら、後輩との関わりの中で、リーダー役を務めさせる。また、1年生は、先輩との交流の中で、NIEに親しみ、これからの新聞作りなどに役立つ。

- 2,期日 2017年1月30日 (月) 6時間目
- 3,場所 体育館

4,講師 大分合同新聞NIE推進室の方(宗岡さん)

5,参加者 生徒 (1年生 75名、
2年生 66名)

教職員 9名

- 6,事前準備 ① 1年生、2年生は、個人ごとに興味のある新聞記事を切り抜いておく。
② 1・2年生は、班分けをする。
③ 2年生は、台紙に必要事項を記入しておく。

7,合同授業

最初は、なかなか話が進まなく、打ち解けるまでに時間がかかることもあったが、だんだんと、話が進んでくると、自分たちが作りたい新聞の方向が定まり、アイデアが飛び交うようになった。合同新聞社の方からアドバイスを頂き、見やすさを考え、記事の配置や見出しをつけることに努力していた。会の始めには、生徒会長(2年)から、「協力して、世界に一つだけの新聞を作りましょう」と挨拶があった。わくわく、ドキドキしながらの1時間はあっという間であった。2年生は、最後の仕上げを行い、「第2回おおい切り抜き新聞グランプリ」への応募に間に合わせた。

生徒は、一つの作品を協力して作りあげる喜びや達成感を味わっていた。また、2年生には、先輩としての自覚とNIEをこれからも続けていこうとする気持ちがでてきた。



記事を読んで、考える1年生。レイアウトを考える2年生。合同で新聞づくりをする様子。

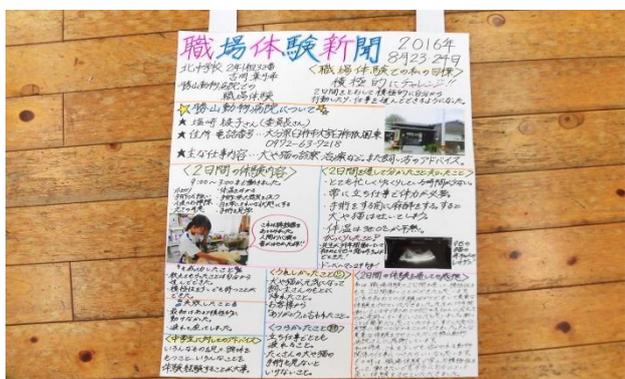
実践⑤ ～1年社会科・地理 「アメリカ合衆国のことを調べよう」 2月～

豊学校との居住地交流の日、社会の授業の中で、新聞を使っの授業を行った。1月に、1・2年合同の縦割り新聞づくりを行っていたこともあり、スムーズに取り組むことが出来た。アメリカ合衆国についての調べ学習

の手法として、NIEを活用した。ちょうどタイムリーな内容を新聞から選ぶことができ、意欲的に授業に取り組めた。2年生の先輩から新聞作りのやり方を学んでいたため、レイアウトの仕方や、見出し、割り付けを、班員と協力しながらスムーズに進めることが出来た。聾学校の生徒も一緒に楽しく進めることが出来た。



実践⑥ ～職場体験新聞づくり・2年生～



進路学習の一つとして、職場体験学習を行った。そのまとめとして、新聞を作製した。それぞれが、体験で学んだことや、職場の様子を図、写真を取り入れて見やすくまとめることが出来た。1年生の時には、「夢新聞づくり」を行っていたこともあり、丁寧な作品が多く仕上がった。この新聞は、第60回県学校新聞コンクール・中学生の部において、最優秀賞を受賞した。

生徒たちは、新聞づくりにも積極的で、お互いの作品を見合いながら質を高めていた。

(職場体験新聞 2年生・夏)

さらに2年生は、3学期に入り、高校調べを行った。これまでの経験を活かして、進学先に関係する高校をチームごとに新聞にまとめた。

4. 成果と課題

- 今年度も教職員全員の取り組みにより、継続が出来た。
- NIEタイムの継続により、感想や自分の思いを枠いっぱい書かせることで、自分たちのこととして、とらえることが出来るようになってきた。
- 1年生の頃から継続して、コラムの視写や感想を

書いてきたので、感想や意見文などを「書くこと」に抵抗がなく、すぐに取り組めた。(3年生)

- 縦割り新聞づくりにより、2年生がこれまでの成果として、後輩に新聞作りの楽しさや、やり方を説明しながら、お互いに話し合い作製することが出来た。また、その取り組みをもとに、教科の授業でも新聞記事を利用して、新聞を作製することができた。(1年生)
- 保健体育や国語、家庭科などの教科や行事にNIEを活用するなど、少しずつ広がりが見られた。
- 新聞の作成時間の確保と、作品の発表・交流の仕方の工夫が必要。
- 保護者、地域との連携をすすめること。
- 輪番制での全校NIEをタイムリーに提案できなかったこと。

☆参考例 2年生 朝のNIEタイムコラム (第7回)

大分大学経済学部的一年生が長机を囲んで向かい合う。「地域社会の課題解決型ワークショップ」の授業だ。講師の多々良先生がマイクで呼びかける。「皆さん、フィールドワーク(体験交流活動)はどうでしたか?生徒や幼児、児童の支援施設に実際に足を運んで、そこで何を感じましたか?」。自発的な発言を求めると、18や19歳の手が次々と挙がった。

▼この講師は、「おおいた地域若者サポートステーション」の総括コーディネーターだ。不登校、ひきこもり、ニート、就職難・様々な就労支援を通して、自立できずに悩む県内の若者の背中を押し続けている。

▼「悩みを抱える人の生活の背景には、様々な要因があり、問題は根深いんです」。ある生徒は、「難しいのかもしれないけど、障害や個性のある人たちが生きやすい世の中にしないとイケない」と、真っすぐ前を見て感想を話した。

▼また、別の生徒は、「知る」ことの大切さを地域で学んだ。いかに相手の気持ちを知った上で言葉のキャッチボールをするか。「それは誰に対しても一緒。コミュニケーションが苦手な子どもも同じだと思った」。

▼講師は言う。「皆が体験した施設には、実は手厚い行政支援が入っている。しかし私たちの身の回りには支援の『外』で苦しむ人が大勢いる。そういう社会的弱者に手を差し伸べるにはどうしたらよいのか、一人一人が、問題意識をもとう。今皆さんの一票が社会を変える『18歳選挙権』がスタートする。

新聞を通して考える 社会と自分

～新聞を進路目標設定（進路学習）に活かす方法を探る・2年目～

大分県立大分舞鶴高等学校 国語科 教諭 小坂 史香

1. はじめに

本校は、スーパーサイエンスハイスクール(S SH) 第3期の指定を受け、また、ラグビー部を始めとして全国大会に出場する部活動も多い。意欲的な生徒が集まり、高いレベルでの文武両道を目指す学校であるが、自分が生きている現代社会で何が起きているのかということ、あまり知らぬまま、考えぬままに過ごしている生徒が大半である。

学んでいることが社会にどうつながっているのかを発見し、自分自身の進路目標を設定するための一助となるように、また、本校が育成したい力としている「社会の変化にたくましく対応できる生きる力」を育むためにも、昨年度よりN I Eの実践指定を頂いている。大学入試に対応する学力をつけるための各教科の学習指導計画に支障をきたさないこと、学年部の協力を仰ぐこと（教員の連携）などを心掛け、65 回生（現2年生）を中心に取り組みを行っている。

【実践の目標】

- 1 新聞を通して、生徒の社会への関心、読解力、思考力、表現力を養成する。
- 2 生徒が自発的に新聞を調べ、進路目標の設定及び達成に資するものとする。
- 3 学年、複数教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

2. 実践の概要

通年	<ul style="list-style-type: none">・N I Eコーナーの設置・コラムの比べ読み + 「思考の種」(記事に対するコメント)・気になる記事の紹介
----	---

授業	<ul style="list-style-type: none">・新聞社発行のワークシートの活用・「S SH普通科探究講座(国語)」(全6時間) ※N I E全国大会公開授業
随時	<ul style="list-style-type: none">・「いっしょに読もう新聞コンクール」への応募・意見文の投書

(1) N I Eコーナーの設置(渡り廊下※掲示板有り)生徒の活動が載った記事の切り抜き「舞鶴魂の体現」や読ませたい特集記事等の掲示を行っている。



(2) コラムの比べ読み

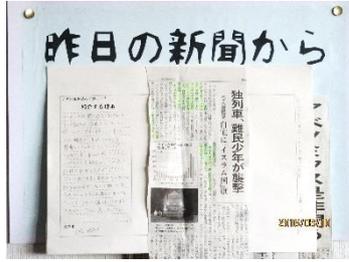
朝日・毎日・読売のコラムのプリントを配布する(平日)。生徒が一番心に残るものを選び、感想意見を記入して提出する(週末)。

週1回、平日のコラムのプリントの裏面に「思考の種」として、新聞記事(教員の選んだ読ま

せたい記事。分野バランスを考慮する)とコメント欄を印刷。生徒は翌日、コメントを記入して提出する。

(3) 記事の紹介※担任するクラスのみ

前日の新聞からクラスメートに紹介したい記事を切り抜き、朝礼時、発表する(1分間スピーチ、「記事の概要」「選んだ理由」「意見)。切り抜きを貼りコメントを書いたワークシートは、教室内に掲示。



(4) 新聞社発行のワークシートの活用

授業の隙間(授業進度に余裕のあるとき。

1回15分程度)に取り組む。採点及びクラスメートの意見の紹介を裏面にコピーし、返却する。

担任(国語科以外)が定期的の実施してくれるクラスもある。



(5) SSH普通科探究講座(全6時間)

<テーマ> 私たちが拓く 大分の未来

<目的>

○論理的思考力や科学的探究力及び表現力を養う。(根拠や事例などを示して、論理的に自分の考えを表現する。他者と協働して課題解決に取り組む態度を養う。)

○主権者としての自覚を促し、必要な知識の理解と判断力を養う。

<参加生徒> 第1期(4月~8月)40名

※全国大会参加

第2期(9月~2月)40名

<指導者> 2学年国語科3名+司書

<指導手順>

次	学習指導	指導上の留意点
1	①新聞から見つけよう。	①無作為に選ばれたテーマに則り、大分県にはどのような問題があり、どのような対策が行われているかを、新聞記事から探して、資料を作成させる。
	②幅広く調べて考えよう。	②他の都道府県や諸外国の状況はどのようなものか、大分県でもできそうな政策は何かを、新聞を始めとしたメディアで調査させる。 ②他と比較し、現在の大分県に必要な政策は何かを、分析・整理して考えさせる。
2	③④情報を共有し方針を定めよう。	③発表の仕方について知る。 ③無作為に選ばれた集団において、自分のテーマに関わる大分県の現状について説明させ、情報を共有させる。
		④政策集団名、リーダー、キャッチフレーズ、方針、政策内容を協議させる。どのような課題に優先的に取り組むのか、必要な政策はどのようなものか、分析・整理して考えさせる。
3	⑤発表に向けた準備をしよう	⑤政策の妥当性をさまざまな観点から検討し、より客観性(説得力・具体性等)のある政策を考えさせ、必要な資料はどのようなものかを考えさせる。
		⑤明快で説得力のあるスピーチ原稿、効果的な視覚的資料とはどのようなものかを考えさせ、準備させる。
4	⑥政策発表会を行おう	⑥代表者には、自分たちの意見を、根拠を持って論理的に発表させる。
		⑥代表者によるスピーチを聞き、適切に評価を与え、それを伝えることで考えを深めさせる。

<課題~授業反省から>

大分県の抱える問題に対する危機感、「リアリティー」の希薄さがあつたのではないかと。大分県のみならず、日本が(ひいては先進諸国すべてが)抱える諸問題の解決を、本気で図ろうとする意欲を喚起する仕掛け・工夫が必要である。また、週1コマ50分しかなく、課外の時間に頼らざるを得ない面があつた。

<第1期生徒自己評価>※各項目4点満点
(4点「よくできた」～1点「できなかった」)

評価の観点	自己評価平均
大分県の現状や課題を知り、解決する方法手段について、さまざまな観点から考え、自分なりの意見を持つことができたか。	3.6
主張を考える際に、根拠を自分の経験や思い以外に、いろいろな方法で情報収集したり新聞記事を集めたりすることができたか。	3.3
仲間と協力し、情報を集めて調査を行ったり政策を考えたりして、チームの政策決定に貢献することができたか。	3.2
話し合いや意見発表の際には、論理的に分かりやすく説明したり表現の工夫を行ったりすることができたか。	3.0
他者(もしくは他班)の意見を聞いて、新たな知識を得たり、または、自分の考えを見直したり、深めたり、広げたりすることができたか。	3.6

全体への発表はリーダーが担ったため、発表に関する自己評価はやや低くなっていた。しかし、現状を知って意見を持ち、他者の意見を聞いて自分の考えを深化させたことへの実感は非常に強い。



<第1期生徒感想>

どんな人からも納得・支持されるような政策を講じることは、なかなか一筋縄ではいかず、矛盾点や主張と方針

のずれ、実現可能な政策であるか等、課題は多かった。しかし、経済を始めとする4つのテーマから大分県を見つめ直すことにより、自分たちの住むこの大分県のことであるからこそ、問題を自分の問題として真剣に捉え、向き合うことができたと感じる。「将来、大分に住みたいと考えている人はどのくらいいるか」という問いには、自分は軽く衝撃を受けた。今回こそ私たちはこのような機会に恵まれ、大分の魅力や努力について知ることができたが、地元の魅力を知らないで日々暮らしているということはとてももったいないことだと思う。まずは、身近なものに興味関心を持つこと、その姿勢を大切にしていきたい。そして何より今回、友達の努力や自分たちの最後の詰めで説得力のある発表ができ、票を多数得ることができたのは嬉しかったし、達成感があつた。非常に良い経験になったと思う。新聞を読むことを続けていきたい。

今回の探究では、まず大分県の問題点を考え、その問題点に対してどのような対策が必要かを考えていく中で、一つの問題であっても、多くの事情が複雑に絡み合っていて、さまざまな角度から考えていかなければ解決しないのだと思った。対策は良いが予算的に厳しかったり、低予算だが効果が薄かったりと、自分たちで政策を考える上でとても苦労した。他の班の政策の宣伝方法手段は若者だからこそできる提案だと思うし、政策自体もすごく独創的で聞いていてとても楽しかった。これからの日常生活においても物事を多角的に考え、友達の意見に耳を傾けて、自分の考えの幅が広がるようにしていきたい。貴重な体験ができた。

政策を考える人たちの苦しみ、大変さが分かった。何が大分県の問題なのかの調査、方針決定のための調査、政策決定した上でさらに調査と、調査がとても大事なのだと感じた。自分たちが考えたことが調べるほど不可能になったり、資料の集め方が分からず四苦八苦したりしたのは良い思い出になった。この活動を通して、改めて大分の魅力を発見することができた。と同時に、問題点も多く見つけた。政治をすることがいかに大変で大切なのか学べた。選挙に対する意識が変わり、新聞の地域の欄にも目を向けるようになった。この探究は難しかった。

今まで大分について考えたことも新聞をよく見ることも

なかったので、今回の探究に参加できてよかったなと思う。大分は田舎だけど天候もいいし、福岡に近いし、自分は住みやすいところだと感じていたが、実際は少子高齢化とか農業とか、いろいろな問題を抱えていて少し驚いた。しかも、そのことを全く知らずに過ごしていたので、自分の知識の少なさを痛感した。そして、もっと社会のことに興味を持つことが大切だと思った。私たちの若い世代が今の社会について知らない、世の中は変わらないと思うし、選挙とか若い人の力が必要になっているので、新聞を読んでいきたい。また、大分のこれからについて考えて、より良い県になったらよいと思う。

メンバーみんなと協力して、探究最後の全国大会まで頑張ることができた。この探究講座は他の講座に比べて大変だと思うこともあったが、今では国語の講座を選択してよかったと思う。自分たちのチームは若者の就農率の問題について考え、農業体験ツアーという政策を出した。自分たちが考えたのは問題の一部だと思うので、これから問題が解決されていき、将来も大分県に住みたいと言えるような人が増えていけばいいと思う。

初め、自分の意見や考えを積極的に言えていなかったため、班全体の話し合いに貢献できていないと感じていたが、ランチミーティングやリハーサルを行っていくにつれて、班の中に温度差があってはいけないと強く感じ、ただ人の意見を聞くだけでなく、その意見について他の見方や考え方はないかを常に意識して聞くようになった。本番当日では、他のチームの発表の時、活動計画や解決策について、多くの疑問点や不安な点を自分なりに見つけることができた。班で話し合う時も、今までは他人と違う意見の時には言うのを恐れていたが、言ってみると受け止めてくれたので、むしろ自分の意見や考えはきちんと伝えることが大切だということを学んだ。

生徒の感想からは、こちらの意図が十分に(個人によっては、こちらの期待以上に)伝わっていたことがうかがえる。これを一過性のもので終わらせるのではなく、自分自身の進路希望と考え合わせながら、継続させられるような取り組みをさせていきたい。

3. 成果と課題

昨年度に引き続き、SSH探究講座では図書館司書と、そして、コラムの読み比べ(思考の種類)などでは各クラス担任と連携し、生徒に取り組みさせることができた。新聞活用の効果と必要性への理解があることは、本当にありがたい。

新聞を読み社会に目を向けることの必要性を、生徒はある程度理解している。しかし、日々の教科学習や部活動で「時間がない」。どれだけ各教科・探究(≒総合的な学習の時間)において、系統的・発展的に取り組ませていけるかが課題である。

大学入学者選抜の方法も変わっていく。国立大学における推薦・AO入試なども増加の傾向にあり、それらに合格している生徒の特徴として、「学問への興味・高校での学びの充実」「主体性」が挙げられる。自分自身の学びがどこへ向かうのかを考えることは不可欠である。

今年度取り組みが徹底できなかったものの一つが「新聞スクラップ」であるが、社会と自分の日常を主体的に結びつけ、具体的な将来像を作り上げるには有効な手段である。各教科の学習指導とともに、意欲を喚起させる手段の一つとして新聞活用を、これからも積極的かつ継続的にしていきたい。



新聞を通して社会と向き合い行動できる生徒の育成

大分県立別府青山・別府翔青高等学校 主幹教諭 徳光 省吾

1. はじめに

本校の学校教育目標である「積極的に社会に参加する、責任と良識ある市民を育成する」を達成するためには、生徒自らが社会の動向や出来事に関心を持つことが必要不可欠である。さらに、関心を持つだけでなく、自分が社会とどのように関わりを持つべきかを主体的に考えることができる力を学校の教育活動全体で培う必要がある。その目的を達成するために本校は「新聞を通して社会と向き合い行動できる生徒の育成」を実践テーマに掲げた。

2. 具体的な取り組みと期待される効果

- 1) 各教科における新聞記事を活用した授業実践と教材の集約
 - ・思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ・単元導入時における、生徒の興味・関心を引き出す
 - ・単元のまとめ段階での、既習事項の確認・深化と発展的思考に導く
- 2) 新聞閲覧コーナーの設置
 - ・新聞に「触れ」「読む」習慣の育成
- 3) 全校一斉の新聞記事の読み取り
 - ・自分の興味関心外にある新聞記事を読むことによる視野・意識の広がり
 - ・時事に関する記事を読むことによる知識の蓄積
 - ・小論文指導の一環
- 4) ホームルーム活動で社会への関心を高める取り組み

- ・自分の考えをまとめ、表現する力の育成
- ・自分と異なる考えに耳を傾け、それを認めようとする姿勢・態度の育成
- ・一つのテーマに対する主体的、協働的な学習活動を通じたクラス作り
- ・計画的、意図的なホームルーム活動の推進
- ・小論文指導の一環

3. 具体的活動に移すための役割分担

取組	役割分担／内容
1	授業改善P T
	各教科主任が主導し実践、報告 授業実践のまとめ（資料管理）
2	教務・司書教諭・司書
	閲覧コーナーの設置と管理 バックナンバーの管理
3	年次部・学科主任
	朝読書の時間を活用した朝N I E タイムの実施（第2・4水）
4	教育企画・年次部
	HRAでの活用

4. 各取り組みについて

実践テーマが、学校教育目標と重なる部分が多いため、本実践による成果と限定して、示すことは難しいが、具体的活動に挙げた四つの取り組みを進める中で、教職員も生徒も取り組みの意図や意義を理解していると感じている。

[取り組み1]・・・授業実践

授業改善プロジェクトチームによる取り組みでは、授業導入時に新聞の記事を紹介し、授業内容の興味、関心を引き出すことや習得した知識を確認するなど、記事を有効に活用している。

以下の表は、本年度研究テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する、主体的・協働的な学びを重視した授業」を作り上げるための「新聞記事を活用した授業実践」(図書館/NIE活用スケジュール含む)の一覧である。

月	研究授業
4～5	<図書館/NIE活用> ・英語 (長屋 4/19)
6～7	<図書館/NIE活用> ・国語 (吉田 6/2) ・地歴公民 (大野 日本史 6/24) ・理科 (清末 科学と人間生活7/13) ・保体 (明珍 保健 6/27) ・情報 (畑野 情報 6月) ・芸術 (中村 美術 6月) ・芸術 (福元 音楽 6月) ・芸術 (浄念 書道 6月) ・家庭 (中山 家基 7/14) ・家庭 (藤田 7月) ・英語 (宇都宮 コミュII 6月) ・英語 (河野 コミュII 6月)
8～9	<NIE 全国大会> ・情報 (畑野 8月 5日) 於：明日香美容文化専門学校
10～11	<校内授業研究会 10月> ・地歴公民 (甲斐) ・数学 (塩月) ・商業 (仲野) ・英語 (森・江藤・諫山) <通常の研究授業> ・国語 (吉田 10月) ・情報 (畑野 11月) ・英語 (河野 11月) ・芸術 (福元 音楽 10月)
12～1	<通常の研究授業> ・理科 (土屋 12月) ・数学 (藤原 12月)

[取り組み2]・・・閲覧コーナーの設置

閲覧コーナーでは生徒が新聞を広げる場面が見られる。コーナーの壁には生徒が部活動等で取り上げた記事を掲載するなどの工夫をし、生徒の目線に合った場となっている。



[取り組み3]・・・「朝NIEタイム」の設定

本校では、朝礼前の10分間を使って、朝読書を実施している。

H27年秋以降、毎月第2・4の水曜日を「朝NIEタイム」として新聞記事を読ませる取り組みを行っている。

記事を読んで、問いに答える形式で、終了前に解答例を配布し、自己採点を行い提出する。

時間が限られているため、記事に対して自分がどのように関わりを持つべきかを書かせるまでの取り組みは出来ていない。

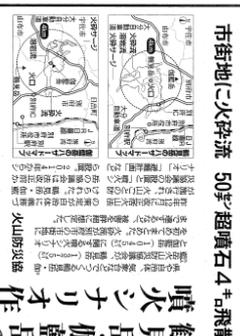
しかし、本校の取り組みとして特筆すべき点は、学校司書が新聞記事に関連した書籍の紹介も併せて行っているという点である。

生徒は、「朝NIE」に取り組み、解答例を読むだけでなく、読んだ記事に関連する書籍を知ることができ、興味をもって図書館に足を運び、本を手にすることで深い学びにつながっている。

(朝NIEワークシート)

市街地に火砕流 50㊦超噴石4ヶ飛散
鶴見岳・伽藍岳の噴火シナリオ作成

自治体避難計画の土台に
火山防災



【朝日新聞 2016.2.7 朝刊】

朝 NIE タイム
Worksheet in Education

①被災地や火山の進行により、どんなことが自治体に被害つられまし
たか？

②被災地の噴火シナリオを基に「ハローワーク」から、どのようなこと
がわかりますか？ 記事から抜き出して書きなさい。

③自治体や企業等について知っていることを書きなさい。※読者取りで
はあてません。

1年次 () 組 () 番 氏名 ()

[取り組み4]・・・HRA活動での活用



朝NIEタイムやHRAでの取り組みは、担任や教科担当者が記事を選ぶことで、生徒の学びのタイミングに合った内容を提供できていると感じている。

課題は、本取り組みの計画性をもってテーマに沿った資料の提供が継続してできているかということである。

そのためにも教職員が新聞を教育活動の有効なツールとして認識することが重要であると考ええる。

(関連図書の紹介シート)

朝NIEタイム関連図書 6/22

「被災者の心を守るー『できる』思い高め問題解決」

ここに紹介した本は図書館にあります

心のケアに関連する本

『心は前を向いている』 中崎真志 著 岩波ジュニア新書 2013年刊
 信頼、創造、回復、我慢、学びなどのキーワードごとに、興味深い実践を通して心の向き方を解説。ネガティブな感情にも役立つ機能があることから、前を向くための秘訣も見えてくる。

『迷う心の「整理学」』 増井武士 著 講談社現代新書 1999年刊
 解消しにくい悩みや心の問題にどう対処すればいいのかが、実行しやすく効果の大きい方法を提示。

他にも・・・

『心の発物をすっとうす 易道力』(東京メンタルヘルスアカデミー所長：眞藤清栄 著 明日香出版)
 『〇に近い△を生かす 「正論」や「正解」に騙されるな』(鎌田眞 著 ポプラ新書)
 『こじれない人間関係のレッスン』(八幡香織 著 太郎次郎社工芸エッセイ)
 『ヨーガスタイル 美しいカラダとげんきなココロ』(橋本京子監修 池田書店) ※呼吸法によるリラクゼーション法

震災関連

『阪神大震災 2000 日の記録』
 阪神大震災を記録しつづける会 編 神戸新聞総合出版センター 2000年刊
 震災後5年経った時点での様々な記録、手記を集めた本。震災から時間が経ったからこそ検証できることもある。被災者への支援として何が必要なかなどがこの本に載せられたボランティアの方のお話しから気づくことができる。

『3.11を心に刻んで2016』 岩波書店編集部 編 岩波ブックレット
 2011年5月に始まったウェブ連載「3.11を心に刻んで」は170名を超える著者により毎月書き進められている。本書はその第1期と第2期の全執筆著者一覧、及び被災地の現在を伝えつつける河北新報社によるレポートやこの5年間の被災地の歩みを振り返る年譜を特別収録。*『3.11を心に刻んで』の2013～2015も所載しています。

ブックレットに付他にも・・・

『災害からの暮らし再生』(山中隆博)『キャッシュ・フォー・ワーク 震災復興の新しいしくみ』(8社特約)

■ 大分県N I Eセミナー 大学で初開催

大分県N I E推進協議会主催の「大分県N I Eセミナー」が11月27日、大分市の日本文理大学で開かれました。教員やN I Eアドバイザー、教育関係者ら約40人が参加。大学でのセミナー開催は初めてです。大学でどのように新聞教材が活用されているのか、参加者が理解を深めました。

同大学人間力育成センターの高見大介副センター長が「おおいたづくりびとプログラム」の公開講義を行い、1年生約70人が聴講しました。新聞記事を手掛かりに、地域社会について考え、学生が自分自身の持つ力を発見するのが講義の狙い。学生はまず、大分合同新聞の子ども新聞「GODOジュニア」の紙面をめくり、地域コミュニティが開いている祭りやイベントに関する記事を探しました。その後、グループで見つけた記事を共有。それぞれが見つけた記事の類似点や相違点を話し合いました。

その上で、子どもたちを取り巻く地域の現状について考えを深め、大学生として何ができるのかということを考えるきっかけとしました。高見副センター長は「新聞記事は社会からのメッセージ。新聞記事を読んで、問題や課題を見つけたら、みんなで解決策を考えていくような社会をつくっていこう。いろんな情報を得て、自分に何ができるかを考え、一步踏み出してほしい」と呼び掛けました。

研究討議では、高見副センター長と吉村充功センター長が、大学での新聞活用の意義について報告。参加者からは「N I Eは、地域社会に興味を持つ学生が社会に飛び出していく助けになる」「大学生には、地域社会の中で実行できる、行動できるという強みがある」「幼稚園から高校までの成長過程を知った上で、大

学でどんな力をつけて社会に送り出すのかを考える必要がある」といった意見が出され、活発な論議となりました。



(写真上) GODOジュニアの紙面をめくり、記事を探す大学生

(写真下) 研究討議では、大学での新聞活用の意義について意見交換

■ 50回迎えた「NIE実践研究会」

NIEに取り組む教員の自主研究組織「大分県NIE実践研究会」は本年度も活発な活動を続け、12月には記念すべき「50回」の節目を迎えました。第50回研究会には、先輩格の研究会であるお隣・熊本県の「NIEネットワーク熊本」の活動に長年関わってきた、熊本日日新聞社の越地真一郎NIE専門委員をお招きし、「新聞でセレンディピティー～“偶然を発見する力”を言葉で体感」と題してワークショップをしていただきました。約30人が参加し、新聞を通じた「出会い」の楽しさを学びました。

このほか、日本新聞協会の関口修司NIEコーディネーター（4月）、県立先哲史料館の河原晃永主任研究員（7月）、日本文理大学人間力育成センターの高見大介副センター長（9月）ら多彩な顔ぶれを講師としてお招きしました。12月には研究会のフェイスブックを開設しました。アドレスは<http://www.facebook.com/nieoita>です。



越地真一郎NIE専門委員（中央）によるワークショップ



関口修司NIEコーディネーター

■ 「実践報告会」で取り組みを発表

1年間のNIEの取り組みを発表する本年度の実践報告会が2月23日、大分合同新聞社会議室で開かれました。実践指定校の担当教諭とNIE推進協議会の役員・委員、NIEアドバイザーら25人が出席。各校の担当教諭からは、授業での工夫や実践による効果、「新聞コーナー」の設置など校内の新聞環境整備などについて報告があり、協議会役員らと活発な意見交流を行いました。

第21回NIE全国大会大分大会報告

期日 2016年8月4日(木)～5日(金)
会場 ホルトホール大分、明日香美容文化専門学校、大分銀行宗麟館
スローガン 「新聞でわくわく 社会と向き合うNIE」

◎1日目＝全体会

芥川賞作家で立教大学教授の小野正嗣さん(佐伯市蒲江出身)が基調講演。「言葉に触れる、言葉で触れる」の演題で、自身の幼少期やパリ留学期の新聞にまつわる思い出を語った後、美しさ、強さだけでなく悲しみ、痛みも含めて言葉や心を包み込む、新聞の大切な役割について話しました。

堀泰樹・大会実行委員長(大分県NIE推進協議会長、大分大学教育学部教授)が基調提案。子どもたちの社会への関心や判断力、課題解決力を育むためのNIEの活性化、NIEのカリキュラム化や校種間連携、図書館活用の必要性などを訴えました。

パネルディスカッション「楽しくなければNIEじゃない!～私たちはなぜ新聞活用に取り組むのか その意義と実践のこつ～」では大会運営委員長の佐藤由美子・大分市寒田小学校長がコーディネーターを務め、小野さんや日本新聞協会の関口修司NIEコーディネーター、NIE実践者の塩川美紀・日田市三芳小学校教諭、NIEを体験した子どもを代表して亘鍋早希さん(大分市碩田中学校2年)、大分合同新聞社の渡辺美加記者が登壇しました。社会の変化に対応するためのNIEの必要性や実践の広がり、組織的、継続的な取り組みの重要性などを議論。NIEで育った子どもがはきはきと自身の考えを表現する姿に、参加者も驚いていました。



◎2日目＝分科会

県内の9校が公開授業を行い、新聞や記事を効果的に使った授業実践が注目を集めました。県内外4校の教員が実践発表し、校内での取り組みをプレゼン。四つのテーマで特別分科会を開き、NIEが直面する今日的な課題について議論し、理解を深めました。分科会后、ホルトホール大分で閉会式を開き、次回大会（名古屋市）を主管する中日新聞社から挨拶がありました。分科会の発表校、タイトルは下表の通りです。



○公開授業

学校名	授業テーマ
大分大学教育学部附属小学校	新聞の日常化をめざして～新聞を使ったフリートークの実践から～
大分市立寒田小学校	ようこそ、私たちの町へ～大分のよさを伝えるパンフレットを作ろう～
〃 舞鶴小学校	平和について考え、発信しよう
〃 滝尾中学校	運動・スポーツ関連記事を活用し、健康との繋がりについて考える
〃 判田中学校	未来の自分の生き方を考えよう
大分大学教育学部附属中学校	ネット活用におけるルールを考えよう
県立大分舞鶴高校	私たちが拓く大分の未来～大分県をより良くする政策を考えよう～
〃 別府青山・別府翔青高校	情報社会の課題について考えよう～マイナンバー制度について～
大分高校	原発記事を読み解く

○実践発表校

大分市立鶴崎小学校
豊後高田市立高田中学校
日本文理大学附属高校(佐伯市)
尚綱高校(熊本市)

○特別分科会テーマ

行政との連携で進めるNIE
学校図書館とNIE
主権者教育とNIE
NIEのカリキュラム化

＜発行＞2017年3月

大分県NIE推進協議会 事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15 大分合同新聞社 NIE 推進室内

☎097-538-9729 fax097-538-9810 ✉nie@oita-press.co.jp